資　料　編

資　料　目　次

□古写真 ---------- 1

■古写真 ---------- 1

■絵葉書 ---------- 3

■航空写真 ---------- 4

□絵図 ---------- 6

■明大寺古屋敷（西郷弾正左衛門居城）絵図 ---------- 6

■岡崎城図　前本多家時代・江戸前期 ---------- 6

■岡崎城図　水野家時代・江戸中期 ---------- 7

■岡崎城図　後本多家時代・江戸後期 ---------- 7

■岡崎城修理伺絵図 ---------- 8

■三河国岡崎城内県庁図　明治初年 ---------- 8

□古地図・岡崎公園図 ---------- 9

■岡崎公園設計図　「岡崎公園設計(案)」 大正６年 ---------- 9

■岡崎公園図　昭和８年頃 ---------- 9

■岡崎町市街地図　明治 43 年 ---------- 10

■岡崎市土地宝典　康生町　昭和８年 ---------- 10

■岡崎市市街地図　昭和２年～５年 ---------- 11

■鳥瞰図　岡崎市とその附近　昭和 11 年頃 ---------- 11

□関係資料 ---------- 12

■史跡岡崎城跡整備基本構想概要　平成 15 年３月 ---------- 12

■史跡岡崎城跡整備基本計画概要　平成 16 年３月 ---------- 15

■近世岡崎城主一覧表 ---------- 20

■岡崎城跡建物一覧表 ---------- 21

■岡崎公園樹木調査　平成 27 年度調査 ---------- 26

■主要樹種別幹周ランク ---------- 28

■岡崎城跡内郭、総構え現況写真 ---------- 32

□参考資料 ---------- 35

■用語集 ---------- 35

■参考文献 ---------- 38

□古写真

古写真

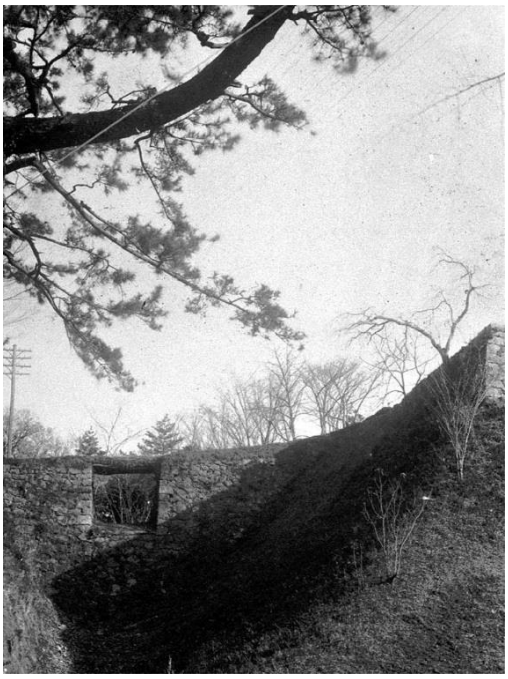
①天守台石垣　昭和元年(1925)頃　天守解体後の天守台と手前は龍城神社の玉垣（南東から）

②天守台と廊下橋台　昭和元年(1925)頃　（北東から）

③天守台西側の通路　昭和 33 年(1958)（北から）

④天守復興工事　昭和 33 年(1958)　穴蔵（地階）石垣の解体。中手前に心礎が据わる。

⑤風呂谷曲輪から菅生川端　昭和元年(1925)頃
（北東から）



⑥清海堀と廊下橋　昭和元年(1925)頃
（西から）

⑦坂谷曲輪と本丸　昭和元年(1925)頃　（南から）

⑧大林寺郭堀から内郭方面　昭和 38 年(1963)
岡崎博開催時の写真。左手塀の手前に大林寺郭堀が残る。（北から）

絵葉書

①持仏堂曲輪太鼓門跡と公園碑

②龍城堀から本丸・風呂谷曲輪を望む
木橋の神橋が架かる。

③家康公産湯の井戸（坂谷曲輪）

④坂谷曲輪（伊賀川沿い）の土塁　大正時代

⑤総構えの俯瞰　大正末～昭和初期　（東から）

航空写真

①昭和 23 年(1948)航空写真（国土地理院）

終戦後に米軍により撮影された。内郭、総構えの輪郭が良く残っている。

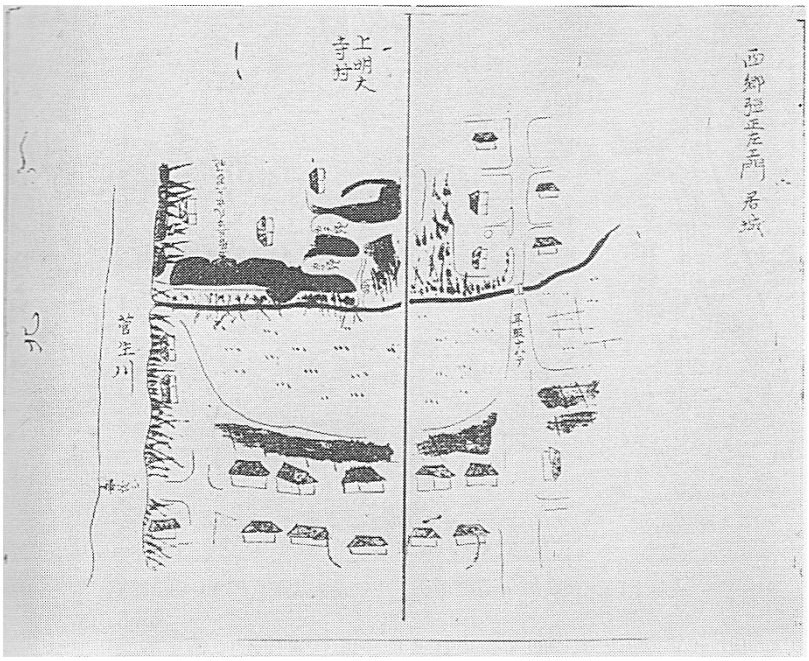
②昭和 33 年(1958)航空写真

戦災復興事業後。区画整理され、道路が拡幅されている。

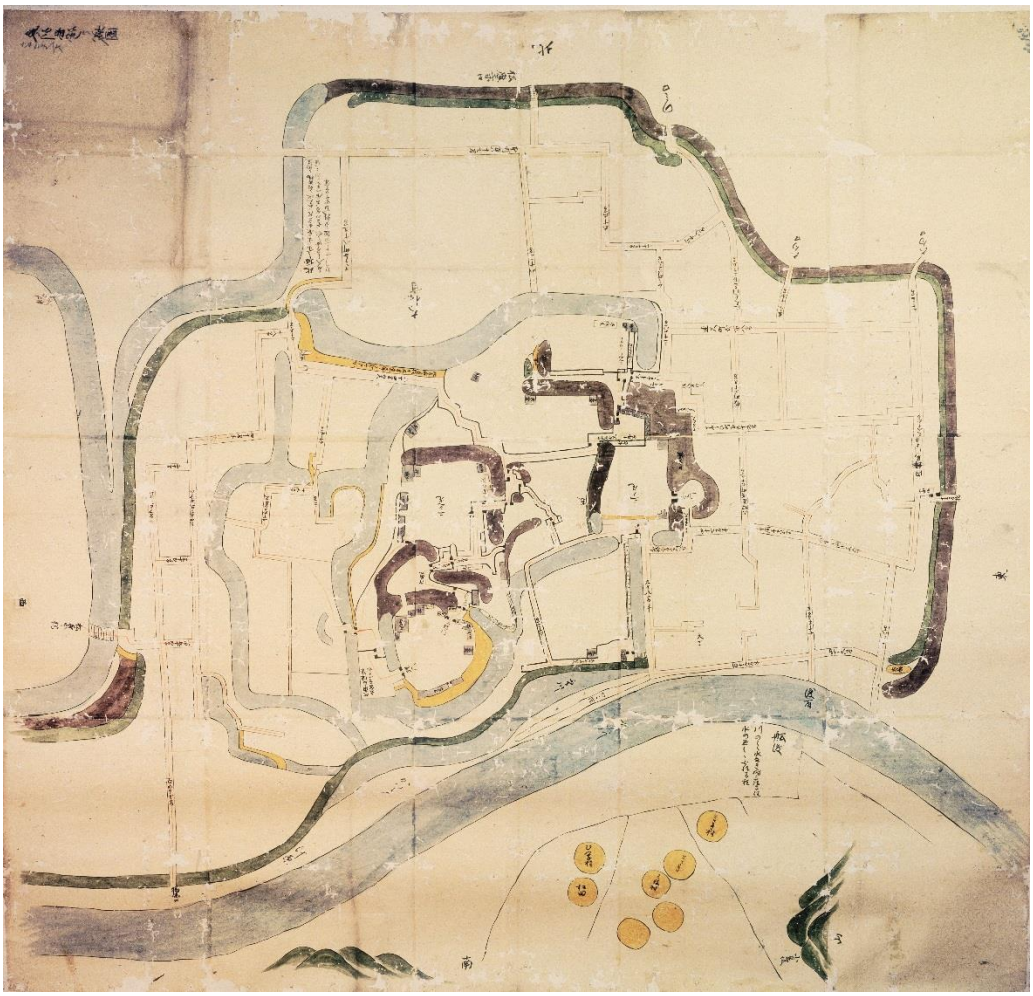
③昭和 61 年(1986)航空写真

④平成 24 年(2012)航空写真

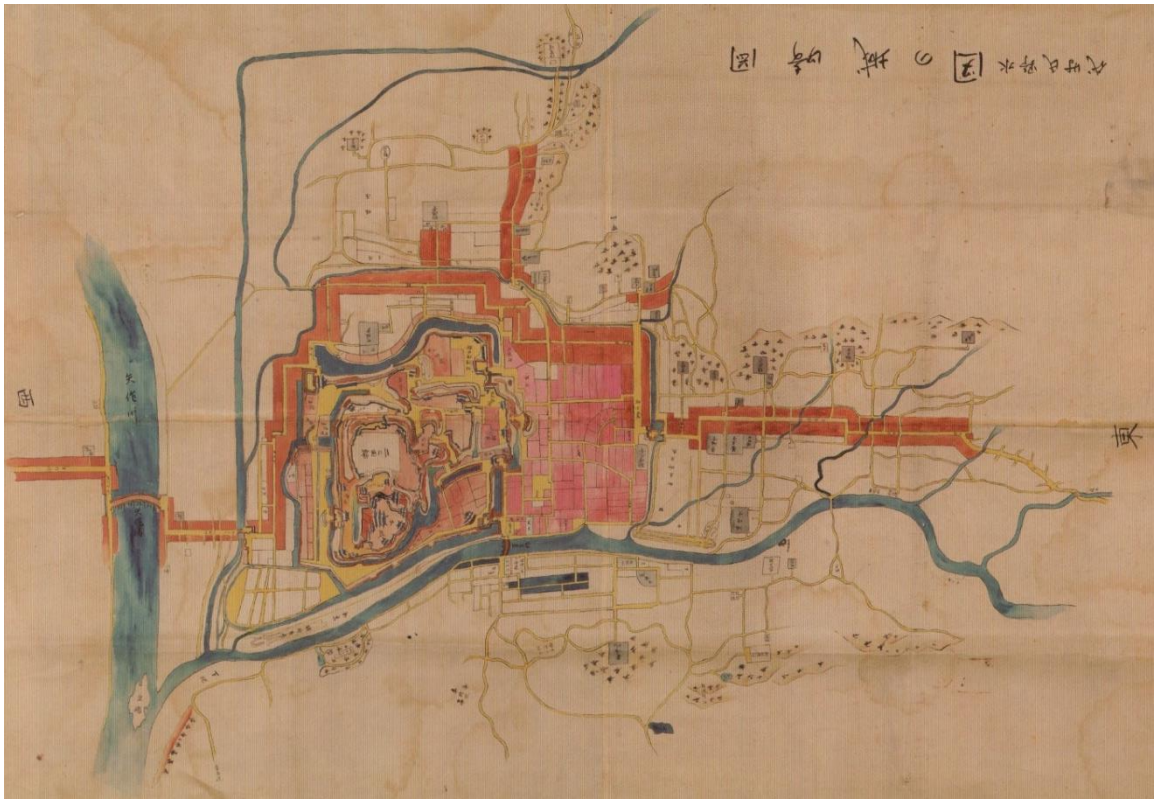
□絵図



①　明大寺古屋敷（西郷弾正左衛門居城）絵図（『三河聰視録　明大寺村記』国立公文書館蔵）
龍頭山移転前の西郷氏時代の明大寺の居館跡と伝わる図。

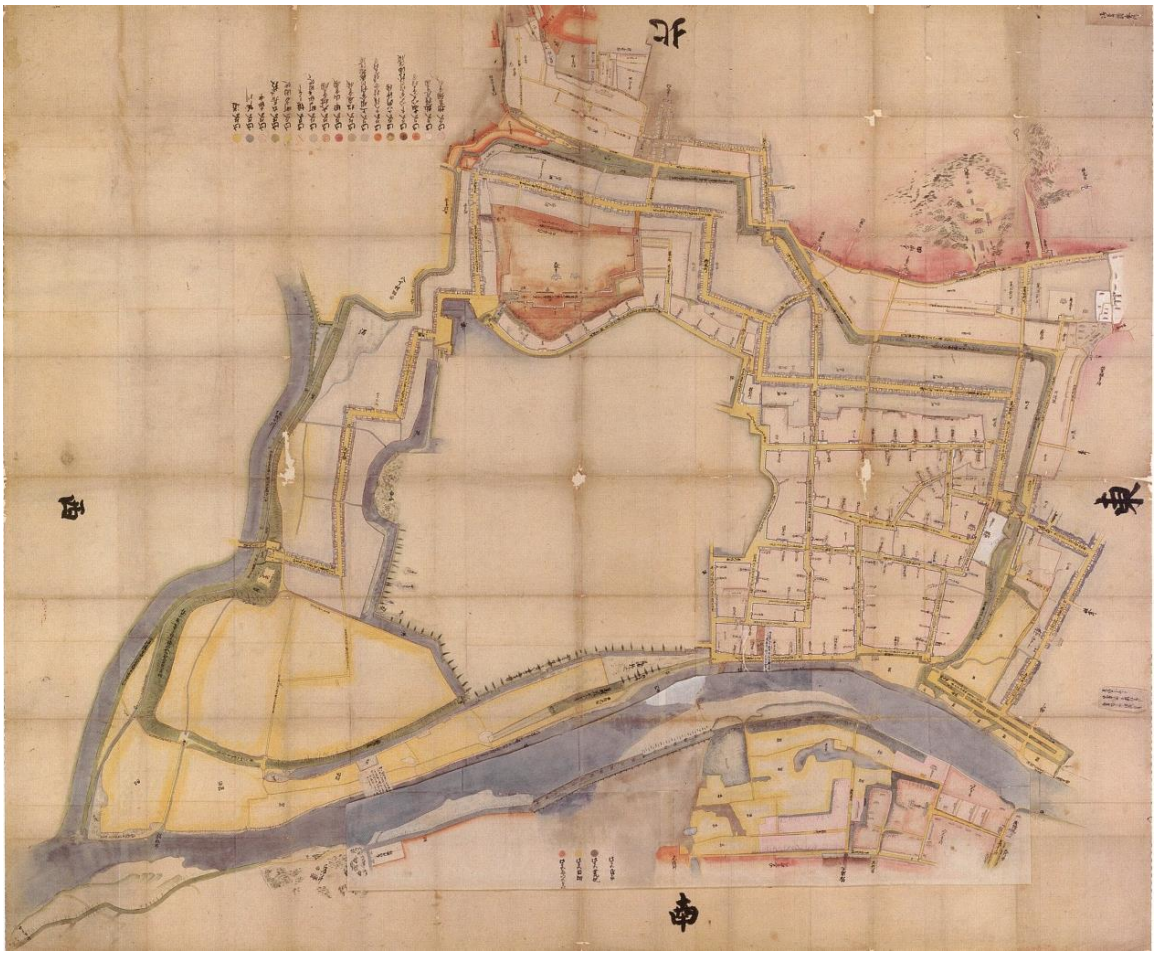


②岡崎城図　前本多家時代・江戸前期　岡崎市美術博物館蔵
籠崎堤や菅生曲輪東を画する水堀が描かれた本多家３代忠利時代の絵図。



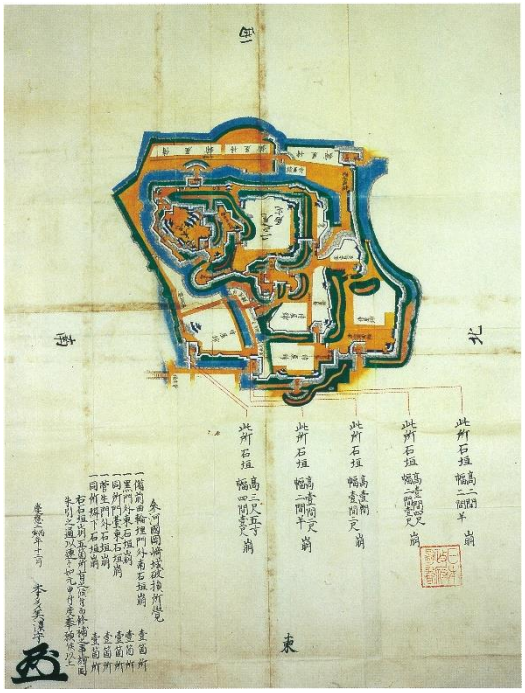
③岡崎城図　水野家時代・江戸中期　中根家文書　岡崎市美術博物館蔵

総構え内東側の武家屋敷と東海道二十七曲り沿いの町家の範囲が明確に描かれている。



④岡崎城図　後本多家時代・江戸後期　岡崎市美術博物館蔵

外郭を 1/600 で描く。東海道二十七曲り沿いの町家や武家屋敷の門等も表現されている。

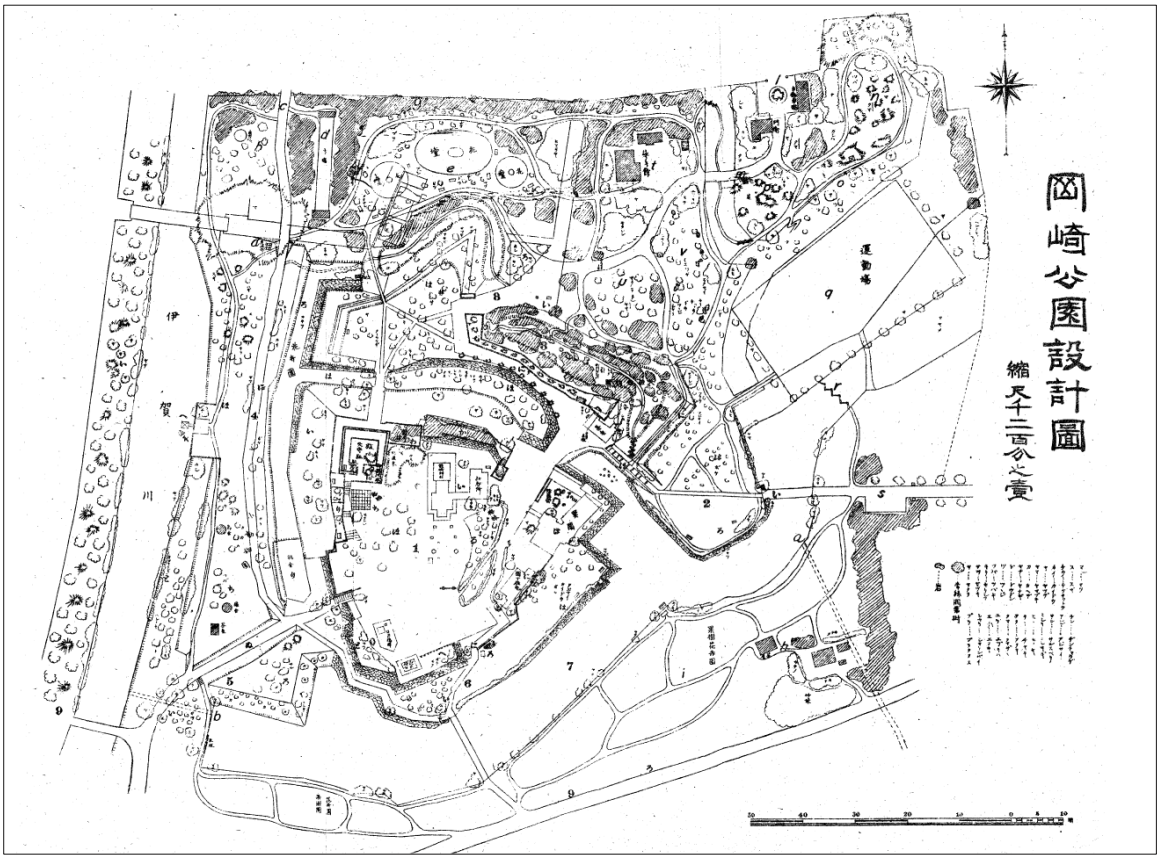


⑤岡崎城修理伺絵図　左：文久３年(1863)　右：慶応２年(1869)　国立公文書館蔵「参河国岡崎城破損所修理御願絵図」　幕末に幕府に対し石垣等の城郭修理を願い出た際の絵図。

⑥三河国岡崎城内県庁図　（明治時代初頭）　岡崎市美術博物館蔵

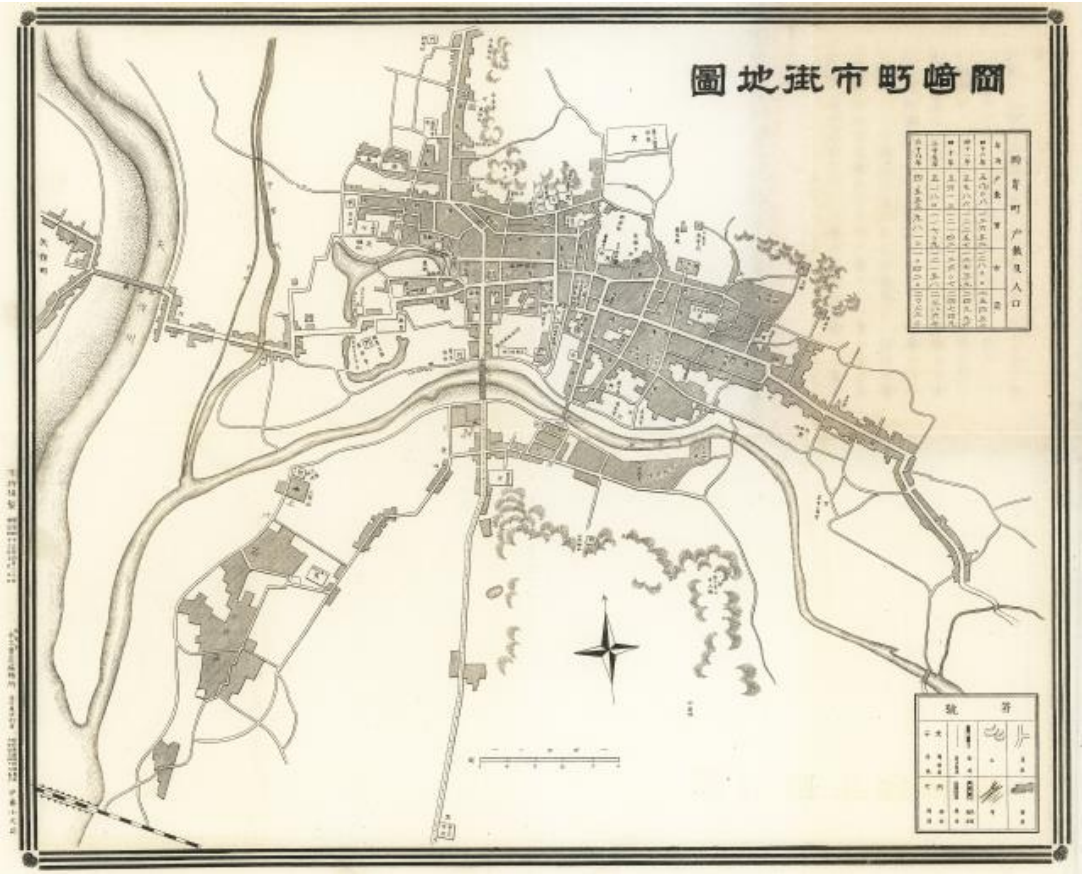
明治２～４年に二の丸に置かれた額田県庁の指図。江戸時代の御殿に手を入れ使用している。

□古地図・岡崎公園図

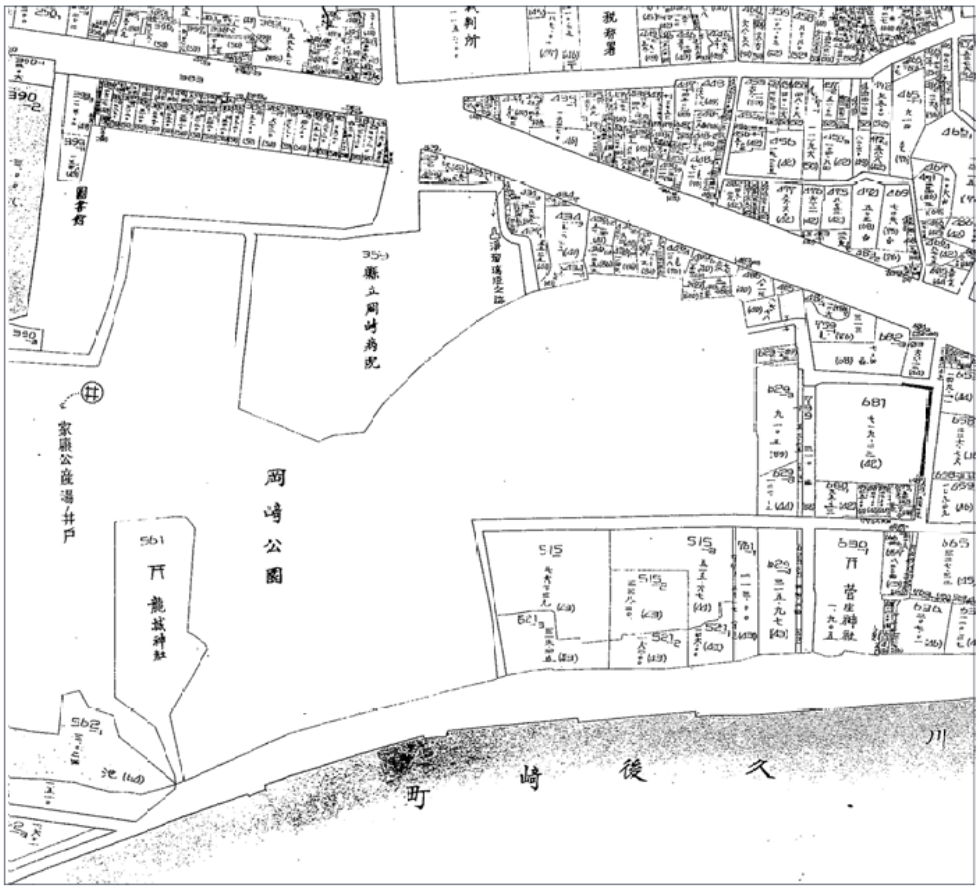


①岡崎公園設計図　「岡崎公園設計（案）」本多静六・田村剛　（大正６年）
岡崎公園の植栽などについて記載されている。

②岡崎公園図（昭和８年頃『岡崎市史』第８巻付図）　岡崎市美術博物館蔵



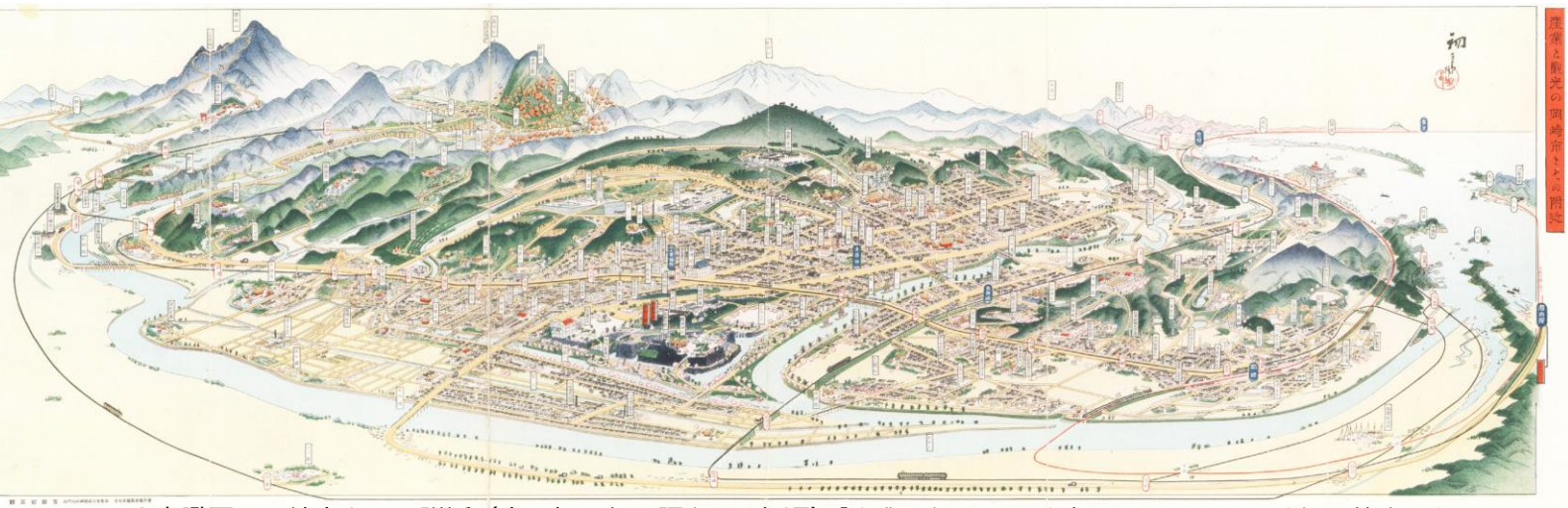
③岡崎町市街地図（明治 43 年『をかざき』付図）



④岡崎市土地宝典　康生町（昭和８年）

⑤岡崎市市街地図　（昭和２年～５年　岡崎市美術博物館蔵）　原図 S=1/3,000 を縮小

国道１号の貫通前の状況を示す。大手から東馬出しの外堀、大林寺郭堀や総堀の北側及び東側などが残り、内郭と総構えの範囲が確認できる。



⑥鳥瞰図　岡崎市とその附近（吉田初三郎　昭和 11 年頃）「産業と観光の岡崎市とその附近」岡崎観光協会発行

岡崎城本丸を中心にパノラマ的に描く。菅生川（乙川）及び伊賀川沿いに桜並木が見られる。

吉田初三郎は、大正から昭和にかけ全国の観光地を「初三郎式鳥瞰図」といわれる独特の図で描いた。

□関係資料

「史跡岡崎城跡整備基本構想」（平成 15 年 3 月）

「史跡岡崎城跡整備基本構想」（平成 15 年 3 月）概要

■整備基本方針

○岡崎城跡を第 5 次市総合計画にある「文化の薫る人間性豊かなまち」の象徴として、歴史と文化と自然を活かした町づくりの核としていくものとする。更に周辺に目を向け、市内にある文化財及び観光スポットなどとの連携を図りながら、地域の歴史・文化についてより深い学習を可能とし、郷土愛の醸成に寄与するネットワークづくりを目指す。

■整備計画案

【史跡指定エリア（岡崎公園エリア）】

○建物復元を行ってできる限り近世城郭の姿に近づけ、当時の状況をイメージしながら歴史・武士の文化について学習することができる整備を行う。

1．歴史体験ゾーン（本丸・持仏堂曲輪・二の丸・清海堀・東曲輪・三の丸（一部））

・城郭遺構の復元

上部構造の把握が可能な櫓・御殿・築地塀について復元を行う。二の丸部分については、花時計等の西洋庭園部分・売店を撤去した後発掘調査を行い、「参州岡崎二之丸御住居図」に合致する遺構が検出された場合には復元を行う。遺構が明瞭に検出されない場合には、現家康館の改修に留め、屋根を桧皮葺に模すなどの外観復元を行う。

現公園駐車場については既に遺構が滅失しているため、三日月堀等の遺構ラインを絵図から推定復元する。平面や地下部分を現況で収まる範囲で引き続き暫定駐車場として使用し、将来は東曲輪の櫓・築地塀の復元を行う。

・清海堀環境の保全

現在露出する中世遺構としては唯一の部分と推定される清海堀周辺については、他の部分と逆に近世的な土塀などの復元を行わず、中世の雰囲気をそのまま残すようにする。

・サイン設置

各曲輪・堀・櫓等の絵図の表示・解説と共に、各所で行われた発掘調査時の写真・図の掲示を行う。

・ガイダンス施設の整備

外面復元された現在の天守閣と二の丸御殿（家康館建て替えを行った場合）を利用し、これまで「岡崎城」・「家康館」で行われてきた文献・絵図・武家資料等の展示に加え、各曲輪の発掘調査による出土品の展示を行う。また、ＣＧ（コンピューターグラフィック）でかなり細密な部分まで当時の建物を復元することが可能である。

２．緑地と水の散策ゾーン１（風呂谷曲輪・坂谷曲輪・龍城堀）

この地区は、近世において通路的な空間地として存在していたため、土塀・櫓・門以外には建物が存在していない部分であった。岡崎公園内の自然調査により、水堀の龍城堀と周囲の　緑地に様々な生物が生息することが確かめられている。その中には、城郭等の古い環境特有の希少種も確認されている。こうした自然遺産を楽しみ、観察する散策路として整備を行う。

・自然観察スポット表示

キシノウエトタテグモ・ミヤマハイゴケ等、城郭特有の希少種についての表示を行う。その他、岡崎公園内とその周辺に見られる樹木・野鳥・水棲生物・石垣の石材と刻印についての観察案内板を設置する。

・遺構の表示

坂谷門とセットになった西馬出しは、典型的な丸馬出しであった。坂谷門は現在石垣が残るが、馬出し部分は現伊賀川河川敷内であるため、河川堤防にモニュメント的に植栽を行い、馬出し部分を表現する。

３．遺構と憩いのゾーン（菅生曲輪・隠居曲輪）

岡崎城内で最大面積の発掘調査がなされた菅生曲輪について、その成果を活かした遺構の露出展示・建物の一部復元を行い、実見しながら学習し、親しめる憩いの広場とする。調査がなされていないテニスコート部分、隠居曲輪部分についても随時発掘調査を行い、敷地内に含めていく。

・遺構の露出展示

菅生曲輪の龍城堀・土橋の石垣を露出し、縄張りの構造や石垣の刻印が見学できるようにする。また、菅生川端から切り通しへ至る道路について、盛り土で遺構面保護をした上にタタキ土の工法により道程を示す。井戸枠や上部を復元しながら井戸等の露出展示を行う。

・武家屋敷の一部復元

発掘調査成果及び絵図「岡崎城郭内外之図」を参照しながら土塀の復元を行う。遺構の配置から部分的に位置が推定される菅生曲輪北屋敷の建物を復元する。復元した建物は、藩士クラスの武士の生活についてのガイダンス施設やミニチュアを制作し全体の間取りの理解を助けるよう展示を行う。

・憩いの広場

菅生曲輪の南屋敷について、遺構保護のため盛り土を施し、その上に芝生等を植栽する。遺構や曲輪全体を眺めながら長時間滞在できる空間として設定する。

・遺構サイン設置

復元・露出が困難な遺構について、発掘調査時の写真・図の掲示や遺構解説板を設置する。

・休憩施設の設置

発掘調査後、隠居曲輪建物の復元。

【総構えエリア（旧城下町エリア）】

現在は市街地となっている地区についても、旧城郭・旧城下町であるという歴史的条件を活かした街づくりと、岡崎城全体について歩いて学べる散策路の整備を基本として行う。

１．城下町散策ゾーン（旧城下町）

この地区は、岡崎城下町・旧東海道沿いの岡崎宿場町・寺社の門前町として栄えた地区である。岡崎公園内の指定区域と関連させて道標や常夜燈などの歴史的遺産を提示し、周遊しながら歴史・文化を体験する地区とする。

・街角サイン設置

城郭（旧曲輪名・堀名）・城下町（旧町名）・社寺と寺社門前町についての案内・解説板を設置する。

・散策路（歩道）の整備

「二十七曲」（東海道）・大路・小路が近世と道筋が変化していない部分についてブロック表示を行い、歩道沿いに本陣・脇本陣跡、御馳走屋敷跡、桜馬場跡、各曲輪跡などの説明版を設置し散策案内をする。

・ガイダンス施設の展示

「二十七曲」沿いの街角の資料館を巡りながら学習する場を設ける。岡崎信用金庫資料館、郷土館（重要文化財指定）を利用し、宿場や町人文化についての展示を行う。これらの資料館は、空襲を免れた市内でも数少ない大正期の建築であり建物自体も貴重であり、近世から現代へ歴史を繋ぐものとなっている。

２．緑地と水の散策ゾーン２（旧総構え（総堀）・菅生川）

岡崎城下の繁栄の基となった河川交通と、天然の堀として機能した菅生川や総堀跡を巡りながら地理的学習をし、また川とお城の情景を楽しめる散策路の整備を行う。城址公園と河川によって造り出される景観を保全するためには、ビスタラインと同様の景観保全条例の措置も必要になると思われる。

・サイン設置

籠崎堤・水運（土場）・総堀についての案内・解説板の設置や、この地区で観察できる自然（生物・樹木）の案内板表示を行う。

・総堀散策路の整備

総堀の位置などについての案内板を設置し、ブロックや植栽による表示を行う。地籍図との照合から総の一部が係ると推定される御旗公園（材木町）の発掘調査を行い、遺構（堀・土居）が検出された場合には復元展示と解説板の設置をする。

「史跡岡崎城跡整備基本計画」（平成 16 年３月）

基本方針

基本構想内で設定されている「史跡指定エリア（岡崎公園エリア）」で考えられる事業計画等について、実現の方策や手順を明らかにし、事業実施時期を定めるなど、より具体的な事業計画を策定。

①史跡指定地内に現存する遺構・自然の保全

史跡岡崎城跡である岡崎公園は、都市公園として整備されてきたという経緯があるため、城址公園として見た場合には、本来城郭にあるべきでないものがあり、全体的に雑然とした印象を来場者に与えている。また、史跡指定地は近世大城郭の一部分に過ぎず、当時の景観をイメージできる部分は分散している。このため、少なくとも指定地内に現在残されている遺構・自然については、そのまま未来への遺産として保全するよう努めなければならない。

②史跡重視の公園整備

これまでの発掘調査により、近世以前の遺構が地下にかなり残されていることが明らかとなっており、現在は残されていない建物復元も将来的には可能と考えられる。このため、地下に残されている遺構の保護のため、大規模工事などは行わず、史跡とは関連性のない施設についてもできるだけ指定地外に出して整備する必要がある。

③近世当時の面影の復元

現存する文書や絵図などの資料調査や発掘調査などより、近世以前の岡崎城の姿を明らかにするとともに、岡崎公園内に残る石垣や遺構の保存に留意しつつ、当時の姿を視覚的にイメージし、体験的に理解できるように当時の状況をできるだけ復元する整備を基本とする。また、史跡指定地外についても、近世の城下町を意識し、近世の城と城下町全体の歴史性を表現・発信することができるよう総合的な整備を行う必要がある。

⇩

「文化の薫る人間性豊かなまち」（第 5 次岡崎市総合計画）の象徴として、歴史と文化と自然を活かしたまちづくりの核なる整備を目指す。

整備事業計画

【短期・中期計画】

「史跡指定エリア」内で考えられる事業計画について、事業実施時期に合わせ、「短期計画」（概ね「第５次岡崎市総合計画」が終了する平成 22 年度まで）、「中期計画」（次期総合計画の履行期間となる平成 32 年度まで）の２つに区分し、実現の方策や手順を明らかにするなど、より具体的な事業計画を策定。

エリア	ゾーン	場所	事業内容	事業実施時期
史跡指定エリア	歴史体験ゾーン	天守閣	展示内容の改装	短期
		家康館	展示内容の改装	〃
		現．立体駐車場	立体駐車場解体	〃
			バス駐車場整備及び外溝修景	〃
			観光総合案内所設置	〃
		現．大手門	七間門への名称改称	〃
	遺構と憩いのゾーン	菅生曲輪	乗用車駐車場整備及び外溝修景	〃
			スタンド取壊し、石積化	〃
			芝生広場（暫定）の整備	〃
			遺構のレプリカ展示を主体とした一部露出展示	〃
			土塀、武家屋敷跡の一部復元	〃
			憩いの広場の整備	〃
			遺構解説サインの設置	中期
	緑地と水の散策ゾーン１	坂谷門跡	丸馬出しのモニュメント化	短期
			遺構解説サインの設置	〃
	その他		園路のバリアフリー化	中期
			サインの充実	適宜
			試掘調査、耐震調査	〃

【長期計画】

「基本構想」において、「史跡指定地内に現存する遺構・自然の保全」、「史跡重視の公園整備」、「近世当時の面影の復元」など、本来、城跡としてあるべき姿となるよう理念・理想を示しているが、それらに基づいた遺構、建物などの復元については、事業実施時期や具体的な工法などは定めない「長期計画」として区分。

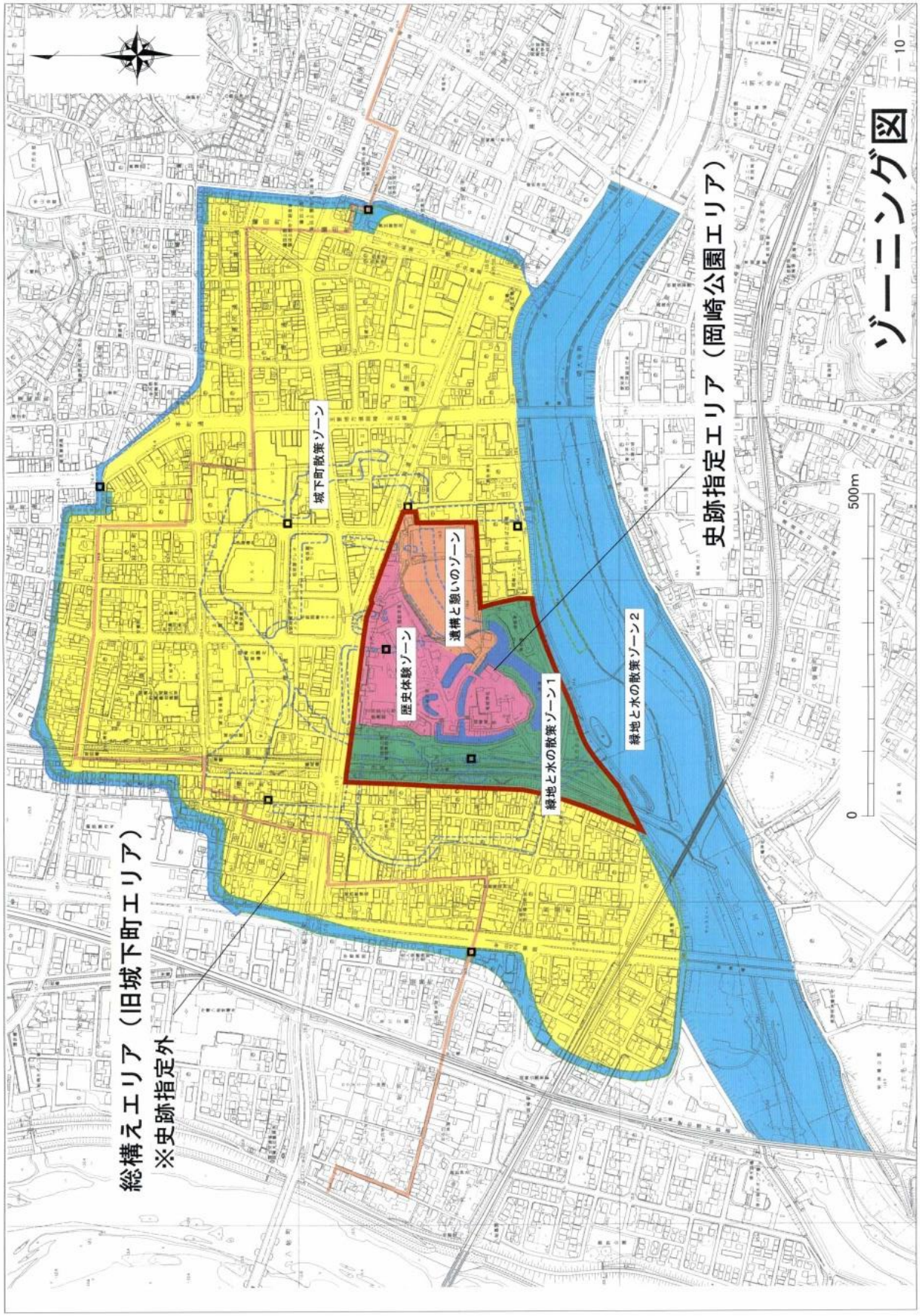
●天守閣や家康館、茶店などの既存の建物については、その建物の耐久年数や耐震診断の結果などを踏まえ、建替え（外観修景も含む）の際には、素材や工法、意匠などについて、史実に基づいた復元ができるかどうかの調査、検討を行い、その結果を建替計画策定時に配慮します。

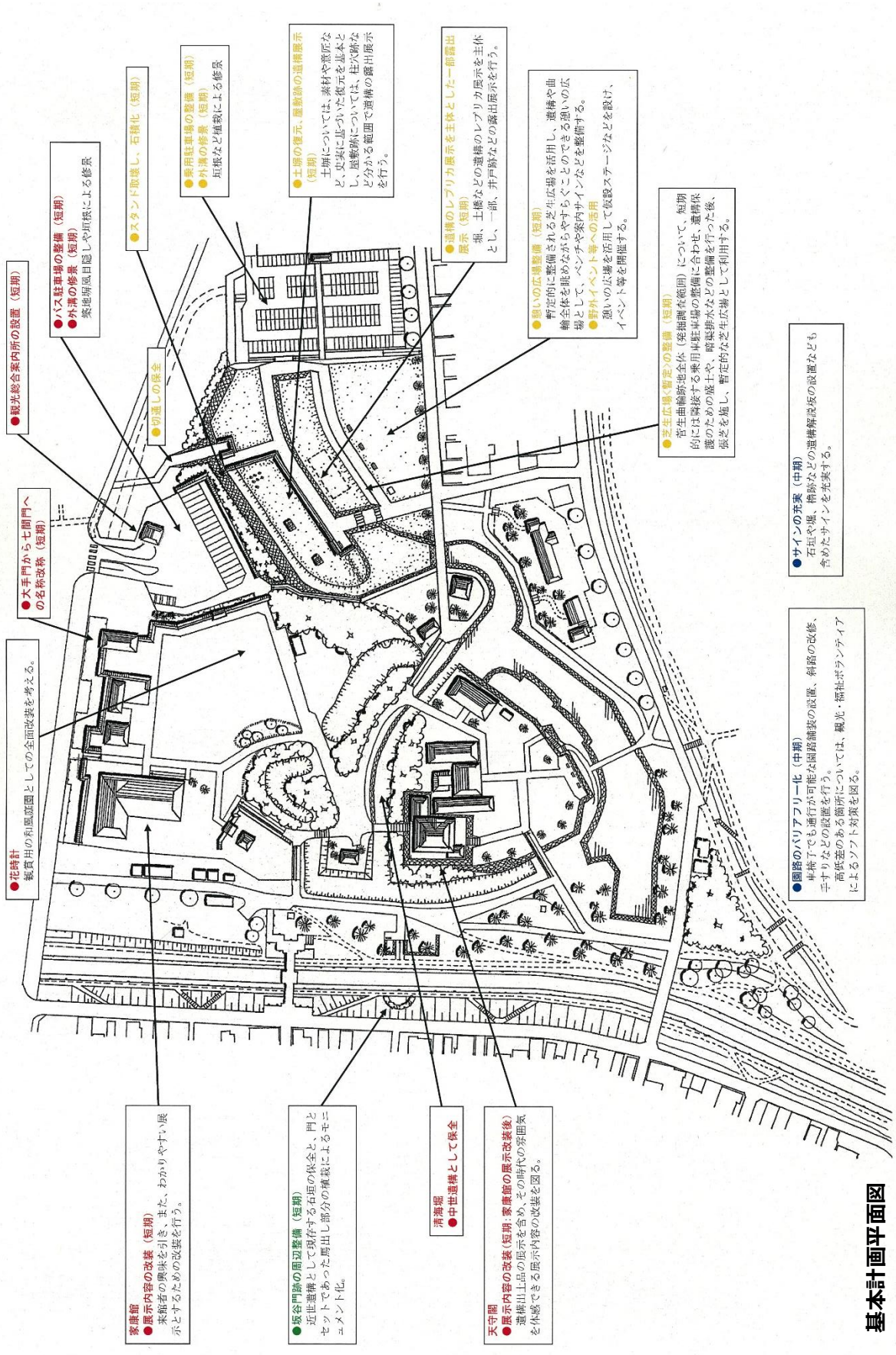
●遺構が残されている可能性の高い区域については、随時発掘調査を行い、遺構の復元についてその是非を検討します。

●史跡エリアの中にある史実外の施設（石碑、銅像、モニュメントなど）については、その施設が設置された時の背景や経緯などを再整理するとともに、配置の見直しなども含めて、歴史面、観光面に配慮した活用の仕方を検討します。

●史跡エリア内に新規に樹木等を植栽する場合には、近世当時から岡崎城周辺に自生していたと考えられる在来種を基本とします。また、既存の樹木については、石垣など遺構の保護、野鳥などの生物の生息を考慮しながら、伐採、移植などの検討を行います。

●照明灯を新規で設置する場合については、色調、灯具の形などデザインを城のイメージにあった落ち着いたデザインのもので統一します。また、既存の照明灯については、老朽化等での交換時期に合わせ、全体的な統一を図ります。


ゾーニング図
史跡指定エリア（岡崎公園エリア）
総構えエリア（旧城下町エリア）
※史跡指定外
城下町散策ゾーン
遺構と憩いのゾーン
歴史体験ゾーン
緑地と水の散策ゾーン1
緑地と水の散策ゾーン2
0
500m


●観光総合案内所の設置（短期）
●バス駐車場の整備（短期）
●外濠の修景（短期）
築地塀風目隠しや垣根による修景
●スタンド取壊し、石積化（短期）
●乗用駐車場の整備（短期）
●外濠の修景（短期）
垣根など植栽による修景
●土塁の復元、屋敷跡の遺構展示（短期）
土塁については、素材や意匠など、史実に基づいた復元を基本とし、屋敷跡については、柱穴跡など分かる範囲で遺構の露出展示を行う。
●遺構のレプリカ展示を主体とした一部露出展示（短期）
堀、土塁などの遺構のレプリカ展示を主体とし、一部、井戸跡などの露出展示を行う。
●切通しの保全
●大手門から七間門への名称改称（短期）
●花時計
観賞用の和風庭園としての全面改装を考える。
●憩いの広場整備（短期）
暫定的に整備される芝生広場を活用し、遺構や曲輪全体を眺めながらやすらぐことのできる憩いの広場として、ベンチや案内サインなどを整備する。
●野外イベント等への活用
憩いの広場を活用して仮設ステージなどを設け、イベント等を開催する。
●芝生広場・駐車の整備（短期）
菅生曲輪跡地全体（発掘調査範囲）について、短期的には隣接する乗用車駐車場の整備に合わせ、遺構保護のための盛土や、暗渠排水などの整備を行った後、張芝を施し、暫定的な芝生広場として利用する。
●サインの充実（中期）
石垣や堀、橋跡などの遺構解説板の設置なども含めたサインを充実する。
●園路のバリアフリー化（中期）
車椅子でも通行が可能な園路舗装の設置、斜路の改修、手すりなどの設置を行う。
高低差のある箇所については、観光・福祉ボランティアによるソフト対策を図る。
家康館
●展示内容の改装（短期）
来館者の興味を引き、また、わかりやすい展示とするための改装を行う。
●坂谷門跡の周辺整備（短期）
近世遺構として現存する石垣の保全と、門とセットであった馬出し部分の植栽によるモニュメント化。
清海堀
●中世遺構として保全
天守閣
●展示内容の改装（短期：家康館の展示改装後）
遺構出土品の展示を含め、その時代の雰囲気を体感できる展示内容の改装を図る。

基本計画平面図

近世岡崎城主一覧表

城主名	生年	就封年	没年	領高（石高）	備　　考
田中吉政（たなかよしまさ）	天文17（1548）	天正18（1590）	慶長14（1609）	５万→10万	西尾城主を兼帯。総堀、城下町を造成し総構えに。矢作川築堤。筑後国柳川32万５千石に転封
前本多家（ほんだ） 本多康重（やすしげ）（豊後守）	天文23（1554）	慶長６（1601）	慶長16（1611）	５万	上野国白井２万石より入封。伝馬町を創設。大林寺郭堀を拡幅整備し、東海道を北へ迂回。
本多康紀（やすのり）（伊勢守→豊後守）	天正７（1579）	慶長16（1611）	元和９（1623）	５万	元和３年（1617）三層三階で天守を再建。白山曲輪などを整備。
本多忠利（ただとし）（伊勢守）	慶長５（1600）	元和９（1623）	正保２（1645）	５万５千	籠崎堤を築く。菅生門から稗田門にかけて石垣構築。３代将軍家光饗応により５千石加増。
本多利長（としなが）（越前守）	寛永12（1635）	正保２（1645）	天和２（1692）	５万５千	家督相続１ヶ月後に遠江国横須賀５万石へ転封。転封後、久能山東照宮を修造。
水野家（みずの） 水野忠善（ただよし）（監物）	慶長17（1612）	正保２（1645）	延宝４（1676）	５万	三河国吉田より入封。籠田・松葉総門、木戸を設置。城下の士庶区分し、手永制で農村統治。
水野忠春（ただはる）（右衛門太夫）	寛永18（1641）	延宝４（1676）	元禄５（1692）	５万	寺社奉行・大坂仮城代。六所神社、高月院を修造。検見引・木綿何割引など藩財政改革を行う
水野忠盈（ただみつ）（豊前守）	寛文２（1662）	元禄５（1692）	元禄12（1699）	５万	矢作橋、大樹寺、松應寺を修造。三河国絵図を作成。
水野忠之（ただゆき）（和泉守）	寛文９（1669）	元禄12（1699）	享保16（1731）	６万	京都所司代・老中。１万石加増。享保の改革を行う。宝永２年（1705）水害で家臣に救済金支給
水野忠輝（ただてる）（監物）	元禄４（1691）	享保15（1730）	元文２（1737）	６万	矢作橋修営。享保の大飢饉時に領内の餓死者を出さず、８代将軍吉宗より賞詞を受ける。
水野忠辰（ただとき）（監物）	享保９（1724）	元文２（1737）	宝暦２（1752）	６万	老臣層の除外により岡崎騒動が起き、藩政改革が挫折。徹底した倹約と緊縮財政で善政を行う
水野忠任（ただとう）（和泉守）	元文元（1736）	宝暦２（1752）	文化８（1811）	６万	宝暦３年幕府の浄瑠璃・稗田米蔵の臨時検視。肥前国唐津６万石へ転封。
（松井）松平家（まつだいら） 松平康福（やすよし）（周防守）	享保４（1719）	寛延12（1762）	寛政元（1789）	５万４百	大坂城代・老中。明和の洪水で幕府より５千両借財。下総国古川より入封し石見国浜田へ転封
後本多家（ほんだ） 本多忠粛（ただとし）（中務大輔）	宝暦９（1759）	明和６（1769）	安永６（1777）	５万	給米削減を実施するが、風水害の頻発、東海道宿駅の諸使節接待の負担の累積で財政悪化。
本多忠典（ただつね）（中務大輔）	明和元（1764）	安永６（1777）	寛政２（1790）	５万	藩財政困窮により「所替願」「預地願」を出すが幕府に認められず、１万両の拝借金を受ける
本多忠顕（ただあき）（中務大輔）	安永５（1776）	寛政２（1790）	天保９（1838）	５万	家老中根隼人ら緊縮政策による寛政の財政改革を行うが、家老都筑氏らの反対で完遂せず。
本多忠考（ただなか）（中務大輔）	文化２（1805）	文政４（1821）	明治12（1879）	５万	藩士禄高を減歩する。幕府より居城修復に３千両、洪水により４千両借財する。
本多忠民（ただもと）（美濃守）	文化14（1817）	天保６（1835）	明治16（1883）	５万	京都所司代・老中（２回）。加茂一揆に幕命を受け出兵し鎮撫する。安政の財政改革に着手。
本多忠直（ただなお）（中務大輔）	弘化元（1844）	明治２（1869）	明治13（1880）	５万	明治２年（1871）版籍奉還。岡崎藩知事。藩校允文館、允武館を開設。

岡崎城跡建物一覧表

主な曲輪の概要　（明和７年（1770）の書上文書）

名　称	規　　模	主な建造物	現状（土地利用）
本丸	総坪数1,746坪余、 差渡し東西38間、南北41間3尺 総塀合計166間5尺	殿守、月見櫓、辰巳櫓、井戸櫓、 鷹部屋、入口多門、三階櫓、 二階門、枡形塀、馬出、外塀	◎岡崎公園： 天守、天守台、売店、便所 龍城神社
持仏堂曲輪	総塀 合計52間5尺	多門、廊下橋、太鼓門	◎岡崎公園：広場、能楽堂
隠居曲輪	総坪数528坪余、 総塀 合計54間4尺	多門	◎岡崎公園：梅林、スロープ園路
二の丸	総坪数3,498坪余、 東西57間、南北78間、 総塀合計116間5尺	七間門、同所南多門、鷹部屋、 護摩櫓、廊下橋上多門、挙母櫓、 同所南附、同所東附、透門、 同所西多門、同所多門	◎岡崎公園： 家康館、売店、便所、 休憩所、修景水路（堀）、 大手門
東曲輪 （東丸）	総坪数729坪余、 総塀 合計108間、	櫓、同所附	◎岡崎公園：駐車場、東隅櫓
三の丸	総坪数3,120坪余、 総塀合計240間2尺	東櫓、西櫓、着到場櫓、 東多門、米蔵	◎国道1号、◎商業地、 ◎高層住宅
備前曲輪	総坪数 不明、 総塀合計109間5尺	東櫓、西櫓、同所北附、 同所西附、多門	◎国道1号、◎商業地、 ◎住宅地
北曲輪	総坪数447坪、 総塀合計84間2尺	櫓、同所附、廊下橋	◎国道1号、◎住宅地
坂谷曲輪	総坪数1,045坪、 総塀合計132間5尺	櫓、南多門、北多門、 同所枡形塀、同所馬出	◎岡崎公園：園路等 ◎伊賀川
風呂谷曲輪	総坪数766坪、 総塀合計199間2尺	櫓	◎岡崎公園：園路等、城南亭
白山曲輪	総坪数　不明、 総塀合計408間6尺		◎新田白山神社、 ◎住宅地
稗田曲輪	総坪数 不明、総塀合94間半、 西側土居80間3尺（内石垣5間）	櫓、同所附、多門、 御用米蔵、同所枡形塀	◎国道1号、◎伊賀川 ◎住宅地
浄瑠璃曲輪	総坪数 不明、 総塀合計156間1尺	櫓、同所附、東側多門、 御用米蔵、	◎浄瑠璃寺、◎商業地、
菅生曲輪	総坪数 不明、 総塀合1,828間4尺5寸、 石垣合397間、土居合163間半、	東側多門、西側多門、 櫓、同所附、同所枡形塀	◎岡崎公園：広場、駐車場 ◎商業地、◎住宅地
籠田町総門	総塀合3間2尺5寸、 総門橋、長3間、幅3間	番所	◎商業地
松葉町総門	総塀合27間4尺4寸	番所	◎商業地、◎住宅地

注）資料は『岡崎市史第２巻』第４編城主編 第１章岡崎城を参照した。

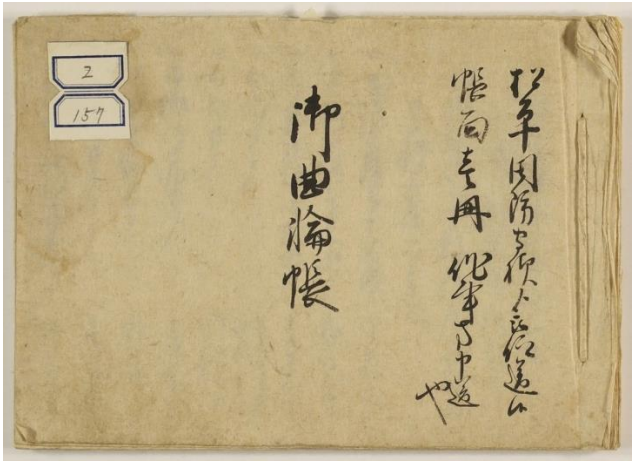
曲輪等の櫓　（明和７年（1770）の書上文書）　１／２

曲 輪 名	建造物名		形　状		狭間の規模	
			桁　行	梁　行	矢狭間	鉄砲狭間
本　丸	殿守	上ノ重	5間4尺	4間6尺	12	12
		中ノ重	7間5尺5寸	6間2尺5寸	6	11
		下ノ重	9間1尺	7間4尺5寸	12	14
	同所附	一	4間	2間半	0	8
		二	3間	2間	0	9
		三	2間	1間4尺	0	3
	月見櫓		3間1尺	3間2尺	2	5
	辰巳櫓		7間1尺	2間4尺 ［3間2尺］	0	0
	井戸櫓		3間4尺	4間半	0	11（内6上ノ重）
	同所附		3間4尺	3間	1	2
	鷹部屋		9間	2間	5	8
	入口多門		8間4尺	2間4尺	2	4
	三階櫓		3間3尺	3間4尺	0	0
	二階門		3間5尺	2間	1	2
	同所脇多門		5間	2間半	0	0
	月見櫓脇多門		9間	3間	0	0
	櫓		3間	2間	0	2
持仏堂曲輪	多門		9間4尺	2間半	0	39（内13上ノ重・石穴15）
	廊下橋		11間3尺	1間4尺	3［6］	12［13］
	太鼓門		5間2尺	2間	0	1
隠居曲輪	多門		10間1尺	2間4尺	0	0
二の丸	七間門		9間2尺	4間1尺	1	4
	同所南多門		14間	2間1尺5寸	4	11
	鷹部屋		19間5尺	1間4尺	6	14
	護摩櫓		5間1尺	3間3尺	0	14（内4上ノ重）［0］
	廊下橋上多門		12間	1間3尺 ［1間1尺］	0	0
	挙母櫓		6間4尺5寸	4間	0	26（内6上ノ重）
	同所南附	一	3間半	2間4尺5寸	0	0
		二	7間4尺5寸	2間4尺5寸	0	0
		三	7間	2間4尺5寸	0	0
	同所東附		3間	2間2尺5寸	0	7
	透門		5間	2間1尺 ［2間1尺5寸］	0	0
	同所西多門		6間	2間1尺5寸	0	11（内6石穴）
	同所多門		8間4尺5寸	2間1尺5寸	0	22（内9石穴）
東曲輪（東丸）	櫓		4間4尺	3間半	0	2（上ノ重）
	同所附		2間	2間2尺	0	0
三の丸	東櫓		4間1尺2寸	3間1尺2寸	2（上ノ重）	22（内11上ノ重）
	西櫓		3間2尺	2間	4（内2上ノ重）	2
	着到場櫓		5間3尺	3間2尺	8	20（内8上ノ重）
	東多門		9間	東 3間2尺 ［3間1尺］	3	10（内3上ノ重）
				西 2間3尺		
	米蔵		21間	3間	14	30

曲輪等の櫓　（明和７年（1770）の書上文書）　２／２

曲 輪 名	建造物名	形　状		狭間の規模	
		桁　行	梁　行	矢狭間	鉄砲狭間
備前曲輪	北櫓	5間1尺	4間1尺	3	24（内10石穴・4上ノ重）
	南櫓	3間4尺	3間4尺	0	6（内2上ノ重）
	同所北附	2間3尺［2間2尺］	1間4尺	0	2
	同所西附	2間4尺	2間2尺	0	1
	多門	8間2尺	2間	0	9
北曲輪	櫓	2間半	2間半	0	0
	同所附	2間	2間1尺	0	0
	廊下橋	13間	1間4尺	6	22（内21上ノ重）
坂谷曲輪	櫓	4間	2間5尺	0	4（上ノ重）
	南多門	5間	2間5尺	1	2［3］
	北多門	20間	2間	0	10
風呂谷曲輪	櫓	5間2尺	3間5尺	0	20（内11上ノ重）
白山曲輪	なし				
稗田曲輪	櫓	5間2尺	3間3尺	0	28（内6上ノ重）
	同所附	3間2尺	2間3尺	0	0
	多門	5間3尺	2間4尺	0	0
	御用米蔵	34間	3間	21	41
浄瑠璃曲輪	櫓	5間1尺［5間2尺］	2間3尺	0	11（内2上ノ重）
	同所附	3間2尺	1間4尺	0	4
	東側多門	22間	3間	0	24
	御用米蔵	17間1尺	3間	0	18
大手多門		10間	2間4尺	0	0
菅生曲輪	南側多門［東側多門］	7間1尺	東 3間2尺5寸 西 2間	0［4］	5
	東側多門［西側多門］	8間1尺	北 2間 南 3間半	4［3］	11
	櫓	3間半	3間	0	5
	同所附	9尺	9尺	0	0

注）資料は「参州岡崎御城 御曲輪帳」及び『岡崎市史第２巻』第４編城主編 第１章岡崎城を参照した。一部異同があり岡崎市史の記載内容を［ ］内に記している。



御曲輪帳　（中根家文書・岡崎市美術博物館蔵）

廃城後移築されたと伝わる建造物

移築後 位　置	城内位置 名　称	形　式	形　状　寸　法			
			横内法	梁行	男柱より 控え柱まで	くぐり戸内法
岡崎市鍛埜町 民家表門　*1	北曲輪	長屋門の一部	2.97m (1間4尺)	1.96m (1間5寸)	1.50m (5尺)	0.79m (2尺5寸)
西尾市西浅井町 宿縁寺山門	二の丸 二の門	薬医門				
岡崎市東阿知和町 謁播(あつわ)神社	念仏堂赤門	四脚門 (元は棟門)				
岡崎市下青野町 慈光寺 現代に建て替え		太鼓櫓				
岡崎市祐金町 善立寺山門　*2 近代に建て替え		(高麗門)				
岡崎市上三ツ木町 圓立寺山門 昭和58年建て替え		薬医門				

*1　出典:新編岡崎市史額田資料編Ⅰ(括弧内の形状寸法は、現状の採寸値を換算した推定値)

*2　国登録有形文化財(建造物)

民家表門（鍛埜町）

宿縁寺山門（西尾市西浅井町）

謁播神社（東阿知和町）

善立寺山門（祐金町）

主な曲輪等の門

位　置		形　式	形　状　寸　法				備　考
			横内法	梁行	男柱より控え柱まで	くぐり戸内法	
本丸		埋門	1間2尺2寸		1間1尺5寸	くぐりなし	除却
本丸多門	外	冠木門	1間5尺		1間	扉に在り	〃
本丸太鼓門	外	冠木門	1間5尺		1間	扉に在り	〃
隠居曲輪		四足門	1間1尺5寸	1間5寸		扉に在り	〃
七間門（二の丸）	外南	冠木門	2間		1間2尺	4尺	〃
	北	冠木門	2間		1間2尺	4尺	〃
東丸		四足門	1間2尺5寸		1間	扉に在り	〃
		埋門	1間5寸		1間5寸	くぐりなし	〃
南切通		四足門	1間2尺3寸	1間1尺		3尺5寸	〃
北切通		四足門	1間3尺	1間1尺		3尺	〃
北曲輪		四足門	1間1尺2寸 ［1間3尺］	1間5寸 ［1間1尺］		2尺5寸	（移築）
坂谷多門	外	冠木門	1間3尺		1間	扉に在り	除却
	南	冠木門	1間2尺		1間5寸	扉に在り	〃
白山曲輪		木戸	1間4尺			3尺	〃
稗田多門（稗田曲輪）	外	冠木門	2間		1間 ［1間1尺］	くぐりなし	〃
備前曲輪		冠木門	2間		1間2尺	3尺2寸	〃
		埋門	1間3尺		1間	扉に在り	〃
大手	外	冠木門	2間1尺		1間3尺5寸	くぐりなし	〃
大林寺下		木戸	2間			扉に在り	〃
材木町口		木戸	2間			3尺5寸	〃
連尺町口		木戸	2間			3尺6寸 ［3尺7寸］	〃
横町口		木戸	1間3尺			3尺3寸	〃
郡内小路	不明	木戸	1間2尺			扉に在り	〃
籠田町口		木戸	2間			扉に在り	〃
総持尼寺脇	不明	木戸	1間2尺			くぐりなし	〃
桜馬場口		木戸	1間4尺			3尺2寸	〃
川端口		木戸	2間			4尺	〃
籠田総門			2間1尺3寸		1間3尺	くぐりなし	〃
松葉総門			2間1尺3寸		1間3尺	くぐりなし	〃
着到場		木戸	1間3尺7寸			扉に在り	〃
杉馬場喰違		木戸	1間4尺3寸5分			くぐりなし	〃

注 1）資料は「参州岡崎御城 御曲輪帳」及び『岡崎市史第２巻』第４編城主編 第１章岡崎城を参照した。一部異同があり岡崎市史の記載内容を［ ］内に記している。

注 2）門の形式は出典資料の記述に拠っているが、四足門はほとんどすべて薬医門、冠木門のほとんどは高麗門と思われる。

岡崎公園　曲輪別樹木構成一覧（高木）　1/2

（規格の大きい低木類も含む）

種　名	曲輪名称												計	構成比（%）	1	2	3	4
	本丸	持仏堂曲輪	風呂谷曲輪	坂谷曲輪	二の丸	東曲輪	菅生曲輪	隠居曲輪	三の丸	備前曲輪	白山曲輪	総構え			高木（常緑）	高木（落葉）	低木（常）	低木（落）
アカメガシワ	3	4					4						11	0.74%		11		
アキニレ	1					1							2	0.13%		2		
アズキナシ					1								1	0.07%		1		
アラカシ		6			3								9	0.60%	9			
イスノキ	5	1			2								8	0.54%	8			
イチョウ	3	1		9	32		36						81	5.44%		81		
イヌマキ	1	3		1	7		1						13	0.87%	13			
イロハモミジ	85	46	20	43	7		15	7			12	4	239	16.04%		239		
ウバメガシ	3												3	0.20%	3			
ウメ	2		8		11			1					22	1.48%		22		
ウラジロモミ					1								1	0.07%	1			
ウワミズザクラ					1								1	0.07%		1		
エドヒガン		1			3								4	0.27%		4		
エノキ	7	8		5	10		6	2				3	41	2.75%		41		
オトメツバキ											1		1	0.07%	1			
カキノキ	1	1											2	0.13%		2		
カクレミノ	5	3		2									10	0.67%	10			
カスミザクラ						2							2	0.13%		2		
カナメモチ		1			1								2	0.13%	2			
カリン								1					1	0.07%		1		
カンツバキ	1				4								5	0.34%			5	
キョウチクトウ	1												1	0.07%	1			
キリ							1						1	0.07%		1		
キンバイカ				1									1	0.07%			1	
キンモクセイ	1			1	5								7	0.47%	7			
クスノキ	11	7	1	16	8	1	7	1					52	3.49%	52			
クロガネモチ	5	9	3	1	6		7	2					33	2.21%	33			
クロマツ	34	17	14	32	27		7	1				1	133	8.93%	133			
クワ											1	1	2	0.13%		2		
ゲッケイジュ			1		2								3	0.20%	3			
ケヤキ		8			1								9	0.60%		9		
コナラ					1								1	0.07%		1		
コノテガシワ				1									1	0.07%		1		
サカキ		2			2		1						5	0.34%	5			
ザクロ					1								1	0.07%		1		
サザンカ	1			4	6			1					12	0.81%	12			
サトザクラ											1		1	0.07%		1		
サルスベリ					1								1	0.07%		1		
サンゴジュ					2		2						4	0.27%	4			
サンシュユ								1					1	0.07%		1		
シダレザクラ					4								4	0.27%		4		
シダレモモ							1						1	0.07%		1		
シノブヒバ					2								2	0.13%	2			
シュロ					1		6						7	0.47%	7			
シラカシ	5	2			2		2						11	0.74%	11			
スギ	1												1	0.07%	1			
スダジイ	5	2		3	4		14						28	1.88%	28			
センダン	2			1	1	1	3						8	0.54%		8		
ソテツ					1								1	0.07%	1			
ソメイヨシノ	4	4	12	79	38	1	54	2			59	75	328	22.01%		328		
タチバナ	1												1	0.07%			1	
タブノキ	4	13			1								18	1.21%	18			
チャボヒバ					4								4	0.27%	4			
テーダマツ		1			3								4	0.27%	4			

岡崎公園　曲輪別樹木構成一覧（高木）　2/2

（規格の大きい低木類も含む）

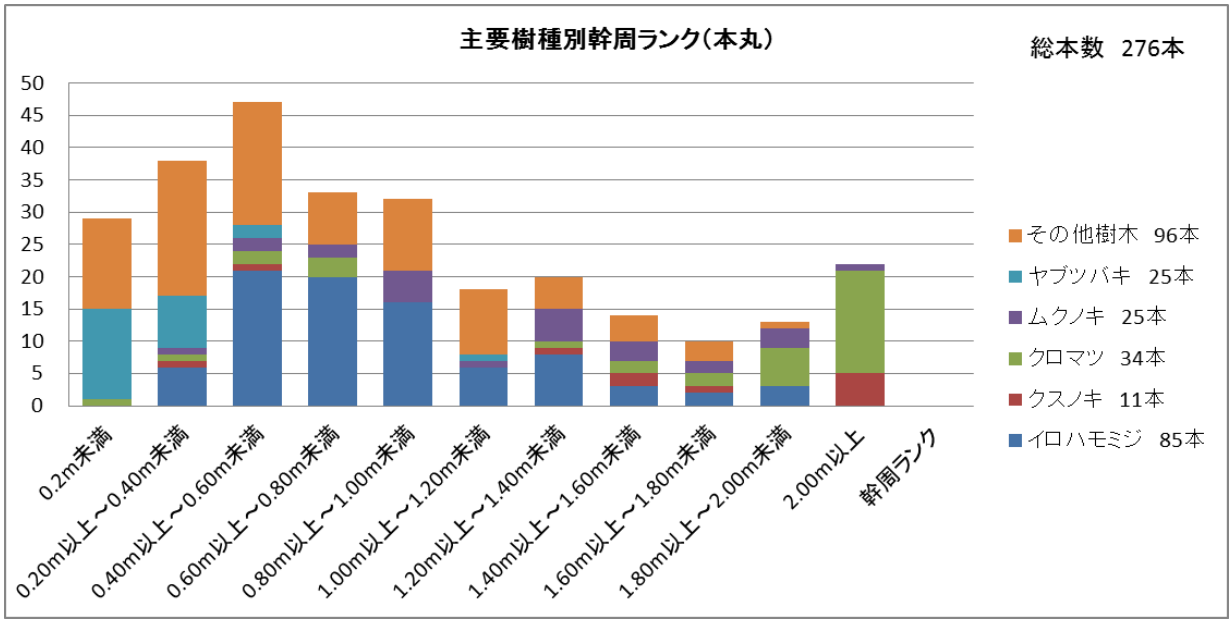
種　名	曲輪名称												計	構成比（%）	1	2	3	4
	本丸	持仏堂曲輪	風呂谷曲輪	坂谷曲輪	二の丸	東曲輪	菅生曲輪	隠居曲輪	三の丸	備前曲輪	白山曲輪	総構え			高木（常緑）	高木（落葉）	低木（常）	低木（落）
トウオガタマ								1					1	0.07%	1			
トウカエデ	1				2		1						4	0.27%		4		
ドウダンツツジ	8												8	0.54%				8
トベラ	3	7			4								14	0.94%	14			
ナツミカン	2							1					3	0.20%	3			
ナワシログミ		1											1	0.07%		1		
ナンキンハゼ	1	1											2	0.13%		2		
ナンジャモンジャ					2								2	0.13%		2		
ネズミモチ	5	3					1						9	0.60%	9			
ハゼノキ					7		1						8	0.54%		8		
ハナズオウ												5	5	0.34%		5		
ハナノキ		1											1	0.07%		1		
ハリギリ		1											1	0.07%		1		
ヒイラギ	1		2										3	0.20%	3			
ヒサカキ		2											2	0.13%	2			
ヒノキ		1											1	0.07%	1			
ヒマラヤシーダ					4								4	0.27%	4			
ピラカンサ		1											1	0.07%	1			
ビワ	1	2											3	0.20%	3			
フジ	2				4		9					3	18	1.21%		18		
フヨウ												1	1	0.07%		1		
ペカン					1								1	0.07%		1		
マサキ		2		2	5							2	11	0.74%	11			
マテバシイ					4								4	0.27%	4			
ミカン				1	1								2	0.13%	2			
ムクゲ					1								1	0.07%		1		
ムクノキ	25	34		8	8	2	7	4					88	5.91%		88		
メタセコイア					4								4	0.27%	4			
モチノキ	5	3		2	5		1						16	1.07%	16			
モッコク		1			1								2	0.13%	2			
モミ	1						2						3	0.20%	3			
モモ							2					1	3	0.20%		3		
ヤブツバキ	25	39		10	14		3					2	93	6.24%	93			
ヤブニッケイ	4	7											11	0.74%	11			
ヤマザクラ		1		3			1	4				1	10	0.67%		10		
ヤマボウシ												1	1	0.07%		1		
ヤマモモ					2								2	0.13%	2			
	276	247	61	225	275	8	195	29	0	0	74	100	1,490		562	913	7	8
構成比（%）	18.5%	16.6%	4.1%	15.1%	18.5%	0.5%	13.1%	1.9%	0.0%	0.0%	5.0%	6.7%		100.0%	37.72%	61.28%	0.47%	0.54%
種類数	39	38	8	21	53	6	27	14	0	0	5	13	91		43	44	3	1

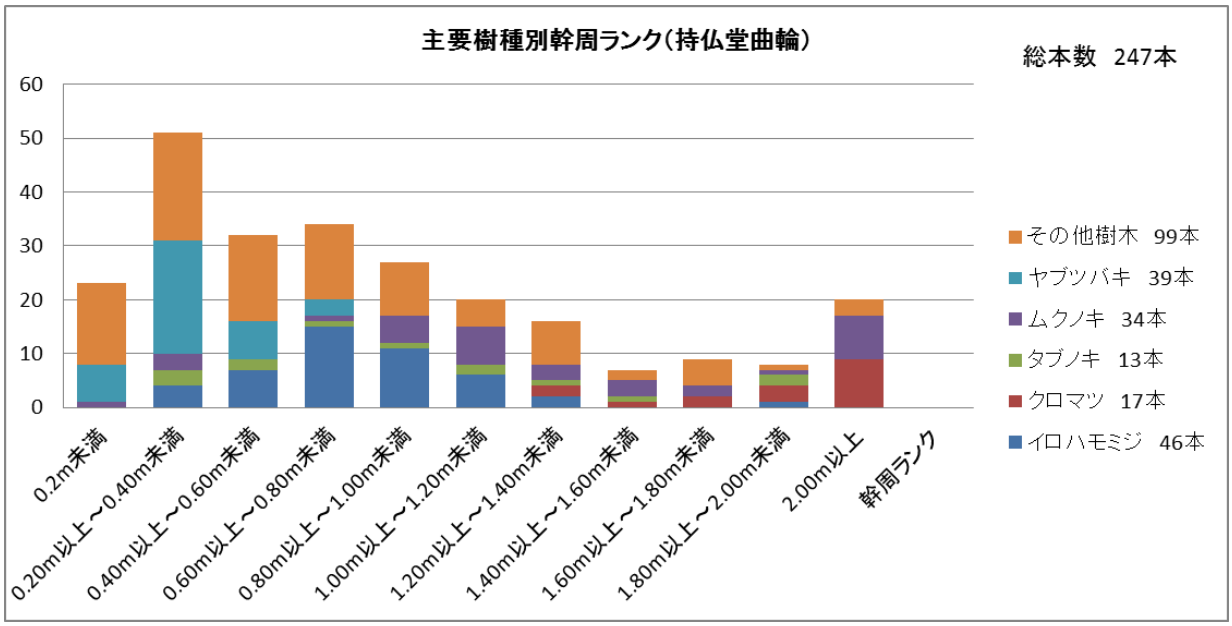
優先樹木（構成比5.0%以上）

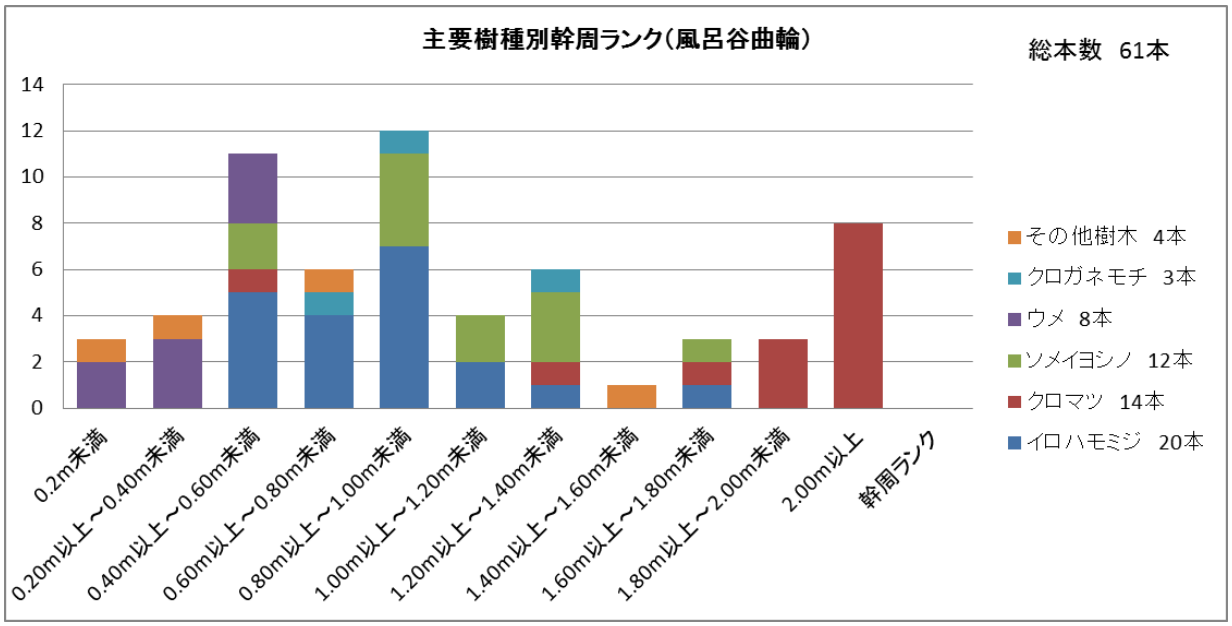
優先樹木	構成比	40.2%	80.6%
	種類数	2	4

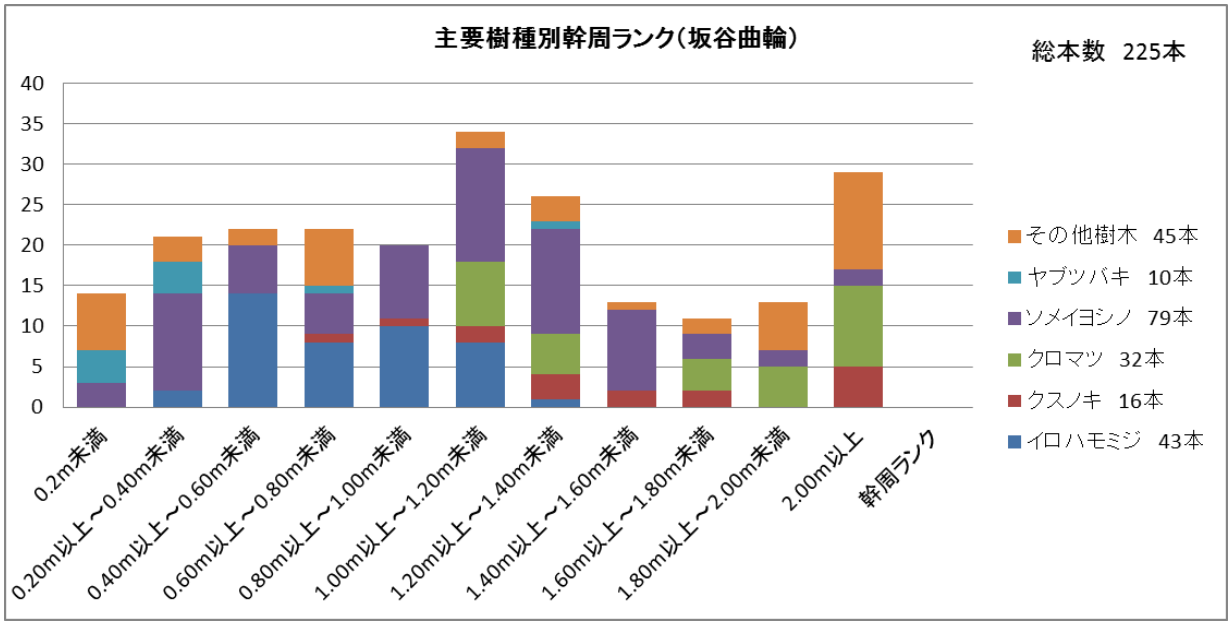
主要樹種別幹周ランク

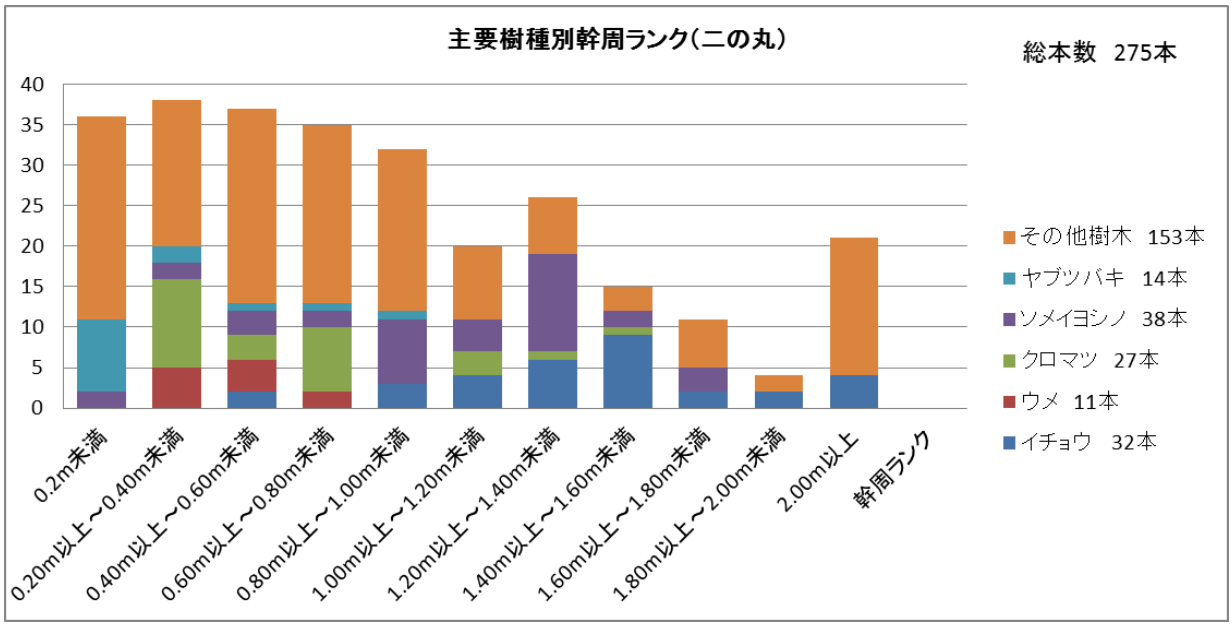
・各曲輪で構成数の多い５種類を抽出し、幹周別にランク分けを行った。
・主要樹種に偏りがある場合は、３種類あるいは２種類の樹木でランク分けを行った。
（隠居曲輪並びに白山曲輪：３種類、総構え：２種類）
・東曲輪は、樹木の本数が少ないためランク作成を割愛した。
・表の横軸は 20cm 毎の幹周、縦軸は本数を示す。

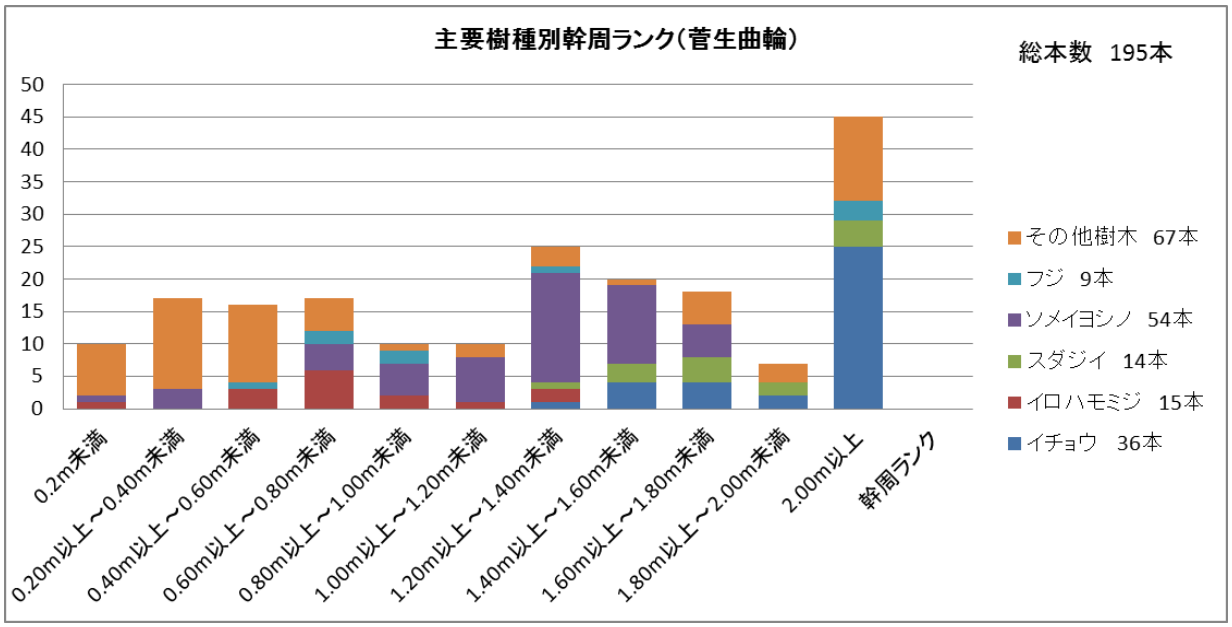


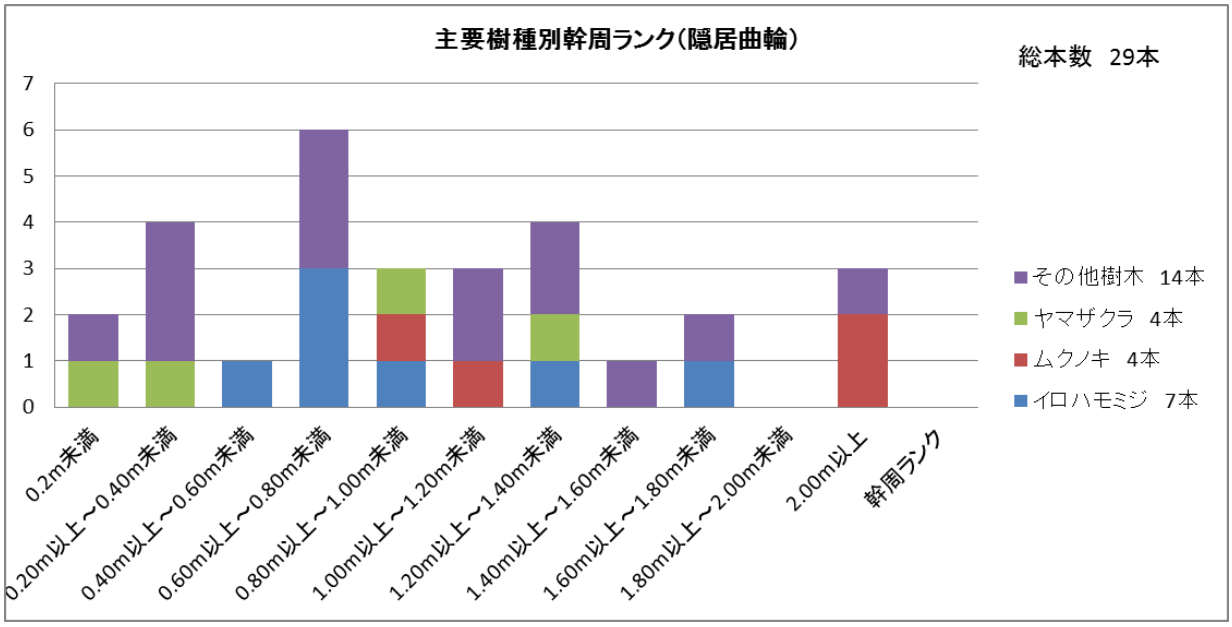


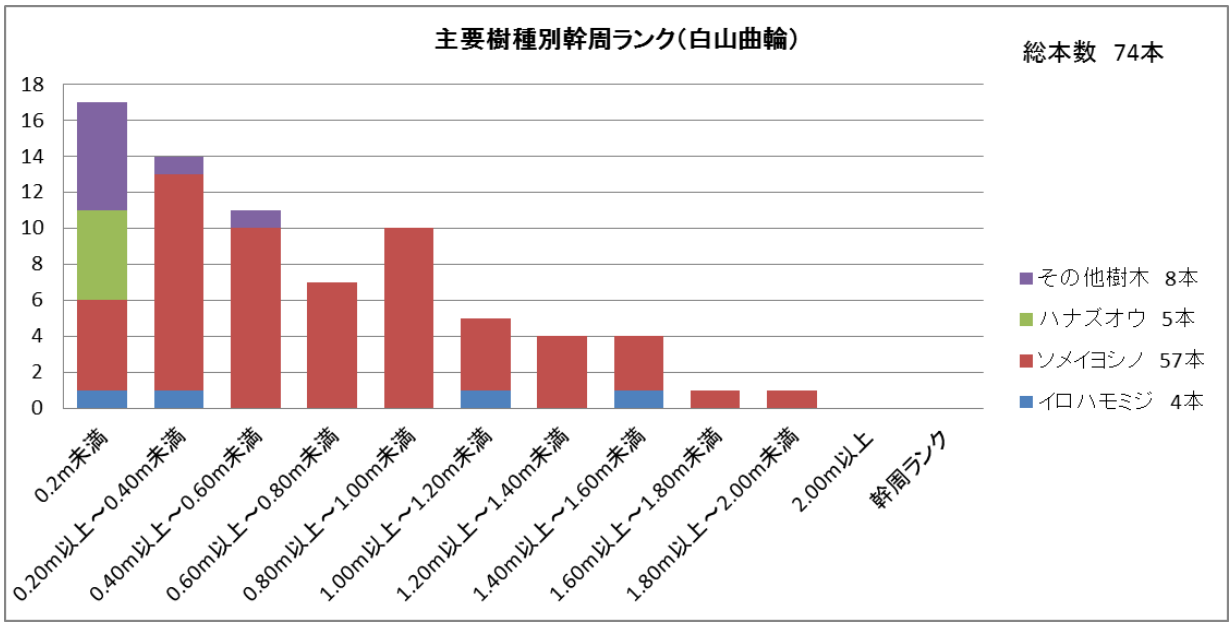

主要樹種別幹周ランク(風呂谷曲輪)
総本数 61本
14
12
10
8
6
4
2
0
0.2m未満
0.20m以上～0.40m未満
0.40m以上～0.60m未満
0.60m以上～0.80m未満
0.80m以上～1.00m未満
1.00m以上～1.20m未満
1.20m以上～1.40m未満
1.40m以上～1.60m未満
1.60m以上～1.80m未満
1.80m以上～2.00m未満
2.00m以上
幹周ランク
その他樹木 4本
クロガネモチ 3本
ウメ 8本
ソメイヨシノ 12本
クロマツ 14本
イロハモミジ 20本

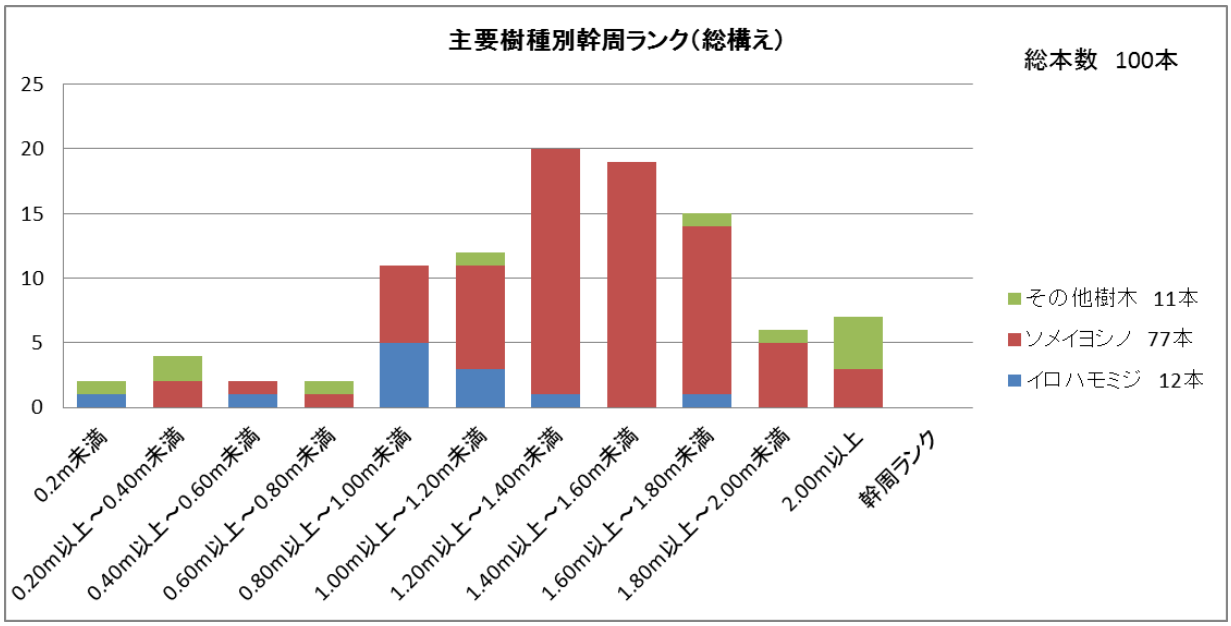

主要樹種別幹周ランク(坂谷曲輪)
総本数 225本
40
35
30
25
20
15
10
5
0
0.2m未満
0.20m以上～0.40m未満
0.40m以上～0.60m未満
0.60m以上～0.80m未満
0.80m以上～1.00m未満
1.00m以上～1.20m未満
1.20m以上～1.40m未満
1.40m以上～1.60m未満
1.60m以上～1.80m未満
1.80m以上～2.00m未満
2.00m以上
幹周ランク
その他樹木 45本
ヤブツバキ 10本
ソメイヨシノ 79本
クロマツ 32本
クスノキ 16本
イロハモミジ 43本


主要樹種別幹周ランク(二の丸)
総本数 275本
40
35
30
25
20
15
10
5
0
0.2m未満
0.20m以上～0.40m未満
0.40m以上～0.60m未満
0.60m以上～0.80m未満
0.80m以上～1.00m未満
1.00m以上～1.20m未満
1.20m以上～1.40m未満
1.40m以上～1.60m未満
1.60m以上～1.80m未満
1.80m以上～2.00m未満
2.00m以上
幹周ランク
その他樹木 153本
ヤブツバキ 14本
ソメイヨシノ 38本
クロマツ 27本
ウメ 11本
イチョウ 32本


主要樹種別幹周ランク(菅生曲輪)
総本数 195本
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
0.2m未満
0.20m以上～0.40m未満
0.40m以上～0.60m未満
0.60m以上～0.80m未満
0.80m以上～1.00m未満
1.00m以上～1.20m未満
1.20m以上～1.40m未満
1.40m以上～1.60m未満
1.60m以上～1.80m未満
1.80m以上～2.00m未満
2.00m以上
幹周ランク
その他樹木 67本
フジ 9本
ソメイヨシノ 54本
スダジイ 14本
イロハモミジ 15本
イチョウ 36本


主要樹種別幹周ランク(隠居曲輪)
総本数 29本
7
6
5
4
3
2
1
0
0.2m未満
0.20m以上～0.40m未満
0.40m以上～0.60m未満
0.60m以上～0.80m未満
0.80m以上～1.00m未満
1.00m以上～1.20m未満
1.20m以上～1.40m未満
1.40m以上～1.60m未満
1.60m以上～1.80m未満
1.80m以上～2.00m未満
2.00m以上
幹周ランク
その他樹木 14本
ヤマザクラ 4本
ムクノキ 4本
イロハモミジ 7本


主要樹種別幹周ランク(白山曲輪)
総本数 74本
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
0.2m未満
0.20m以上～0.40m未満
0.40m以上～0.60m未満
0.60m以上～0.80m未満
0.80m以上～1.00m未満
1.00m以上～1.20m未満
1.20m以上～1.40m未満
1.40m以上～1.60m未満
1.60m以上～1.80m未満
1.80m以上～2.00m未満
2.00m以上
幹周ランク
その他樹木 8本
ハナズオウ 5本
ソメイヨシノ 57本
イロハモミジ 4本


主要樹種別幹周ランク（総構え）
総本数　100本
25
20
15
10
5
0
0.2m未満
0.20m以上～0.40m未満
0.40m以上～0.60m未満
0.60m以上～0.80m未満
0.80m以上～1.00m未満
1.00m以上～1.20m未満
1.20m以上～1.40m未満
1.40m以上～1.60m未満
1.60m以上～1.80m未満
1.80m以上～2.00m未満
2.00m以上
幹周ランク
その他樹木　11本
ソメイヨシノ　77本
イロハモミジ　12本

岡崎城跡内郭、総構え現況写真（整備拠点箇所）

①菅生川端石垣

01 菅生川（乙川）堤防沿いの石垣（東から）

②菅生門

02 菅生川に臨む菅生門跡地（南東から）

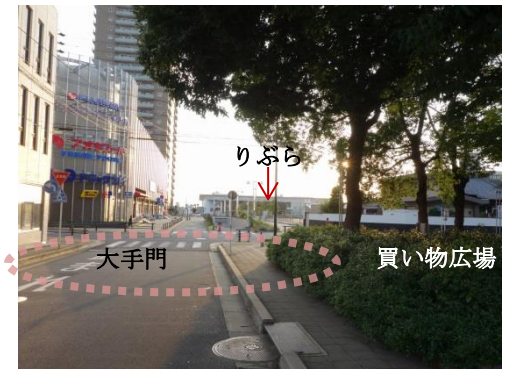
③黒門

03 国道１号より南に下がる位置が黒門跡地（東から）

④東馬出し（備前曲輪）

04 このエリアは高台になっており東馬出し付近と推測される。（西から）

⑤大手門



05 正面が大手門跡地（東から）

⑥大林寺郭堀（買い物広場）

06 広場の東側が大林寺郭堀跡（北西から）

⑦大林寺郭堀（城北遊園）

07 園内で堀跡の石垣が確認された。（北から）

⑧稗田門

08 現在、南北に延びる狭い路地の中間辺りが稗田門。（北から）

⑨外堀（新田白山神社）

09 神社の境内西側に外堀が弧を描いて南北に延びる地割が残る。（南から）

10 白山神社のクスノキ（市指定天然記念物）の西側に外堀が延びる。

⑩総堀、桜馬場（乙川堤防）

11 総堀と菅生川との合流点付近。左側の樹林は中央緑道（南から）

12 総堀の東側に桜馬場が菅生川沿いに延びる。（西から）

⑪御馳走屋敷

13 総堀と御馳走屋敷（南から）

⑫籠田総門　（東海道二十七曲り）

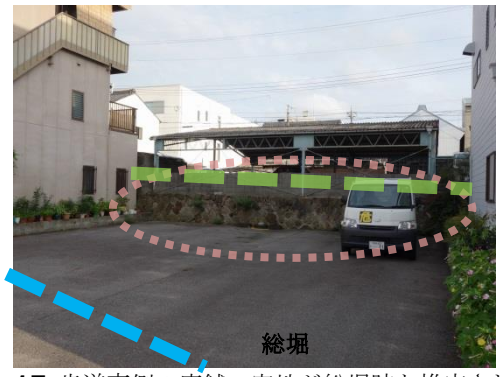
14 籠田総門跡、東海道二十七曲り（西から）

⑬総堀（籠田公園）　（東海道二十七曲り）

15 公園東側の歩道沿い（南から）

16 公園内に芝生間のラインで動線を表現している。（南から）

⑭総堀（八幡町沿い）



17 歩道南側の店舗・宅地が総堀跡と推定され、石垣の高低差が土塁との境を示す。（北から）

⑮信濃門（総堀）

18 信濃門跡（東側）付近（北から）

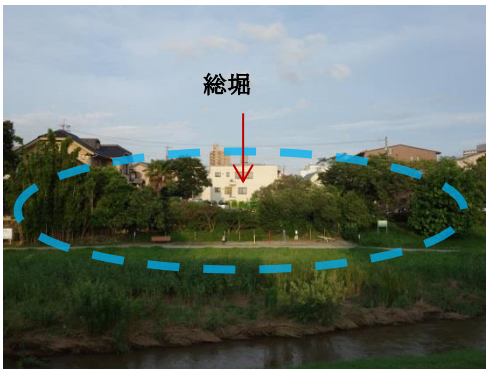
⑯総堀（御旗公園）

19 公園内を総堀跡が東西に延びる。（南東から）

⑰総堀（伊賀川堤防）

20 総堀跡の内側。西側の河岸段丘に近く、高低差が顕著に判る。（北から）

⑰総堀（伊賀川堤防）



21 伊賀川右岸から。正面が総堀跡（西から）

⑱総堀、河岸段丘（白山神社）

22 東海道二十七曲り（柿田橋東南詰め）（西から）

⑲松葉総門

23 正面の交差点付近が松葉総門跡（東から）

⑳総構え土塁（明神橋付近）

24 菅生川の堤防となる総構え土塁（南西から）

□参考資料

用語集

【あ行】

入母屋破風　いりもやはふ

入母屋造の屋根の端部にできる三角形の壁面。

埋門　うずみもん

土塁や石垣、塀の間を一部空け、中をくぐる構造の門

打込接ぎ　うちこみはぎ

石の面側の形を整えて加工し、隣の石と合いやすくして積む積み方。隙間に間詰石をはさむ。

馬出（し）　うまだし

人馬の出撃などのために出入口（虎口）の外に築いた小曲輪。馬出しの外側にも堀と土塁・土塀をめぐらせ、虎口と城外とを土橋でつなぐ。

裏込　うらごめ

石垣を構成する各種の石の一つ。積み石の背後に排水と補強のために詰められる小石のこと。

胞衣皿　えなざら

胞衣とは胎児を包んだ膜と胎盤をいい、後産ともいう。生まれた 子供の健やかな成長や立身出世を祈り家の間口や土間に胞衣を埋納する習俗において用いられた皿。専用に作られたものもある。

大手（大手門）　おおて

城の正面出入口（虎口）を大手といい、そこに建つ門を大手門という。当初は追手（おうて）といった。

【か行】

鏡石　かがみいし

石垣の目に付く場所に据えられた巨石。鏡石には様々な意味合いが想定されている。

鍛冶遺構　かじいこう

製鉄等の金属の精錬や鋳造、また鍛造等の製品作成を行った跡

冠木門　かぶきもん

鏡柱に冠木（上部の横木）を貫いてかけた構造の門。江戸時代には、高麗門や薬医門もまとめて冠木門と呼ばれた。

唐破風　からはふ

屋根の端部を丸く盛り上げた破風。軒先の一部を丸くした軒唐破風、屋根自体を丸く作った向唐破風がある。

空堀　からぼり

水のない堀。山城の堀はほとんどが空堀であった。

搦手（搦手門）　からめて

城の裏口を搦手といい、そこに建つ門を搦手門という。

切込接ぎ　きりこみはぎ

石の表面を徹底的に加工し、隙間なく積む積み方

曲輪　くるわ

城郭・城館を構成する空間の基本的な単位で、防御施設で囲まれた平坦面をさす。郭ともいう。

高麗門　こうらいもん

鏡柱上の冠木に小さな屋根を架け、その小さな屋根と直交する控柱（門扉の後方に立つ２本の柱）上に、それぞれ小屋根を架けた門。

虎口　こぐち

城館の曲輪への出入口のこと。出入口を小さく築く小口が語源とされる。

腰巻石垣　こしまきいしがき

土塁の裾に沿って築いた石垣。土塁の上部に沿って築いた石垣を鉢巻石垣という。

御馳走屋敷（町並屋敷）　ごちそうやしき（まちなみやしき）

岡崎城主が幕府の公的通行者を接待するためなどに設けた居館。元上肴町にあったのを、水野忠善が籠田総門脇の興蓮寺跡地に移転した。長屋、厩、変事退場の場所も広く有した。主に朝鮮通信使、御茶壺道中の休泊に用いた。

御殿　ごてん

身分の高い人が住む邸宅。城主が居住する館。

【さ行】

狭間　さま

天守や櫓、土塀の壁面に開けられた矢や鉄砲を放つための穴のこと。

隅櫓　すみやぐら

防御上の要とされた城壁の隅部に建てられた櫓

総構え　そうがまえ

城のほか城下町一帯も含めて外周を堀や城壁、土塁で囲い込んだ日本の城郭構造をいう。惣構、総（惣）曲輪（郭）ともいう。

総堀　そうぼり

城郭のもっとも外側にめぐらせた堀。城下町を囲む総構えの堀。外堀ともいうが、本書では内郭の外側にめぐらせた堀（外堀）と区別している。惣堀ともいう。

反り　そり

屋根や石垣につける曲面。石垣においては、途中からそそり立つように急勾配になるもの。

【た行】

太鼓門　たいこもん

登城合図や時を知らせる太鼓を備えた門

対面所　たいめんじょ

室町時代以後の武家屋敷内に設置され、主従関係にある者との対面儀礼の際に用いられた施設

谷積み　たにづみ

石の面を目地が対角線上になるように積む積み方。

多聞櫓　たもんやぐら

城壁の上に長く連ねて建てた建造物。多門櫓ともいう。

天下普請　てんかぶしん

江戸幕府が命令し全国の諸大名に行わせた城郭普請などの土木工事

天守　てんしゅ

室町時代末期に出現した三階建て・四階建ての大櫓を祖とする建物。一つの城の象徴として高い格式を誇った。織田信長が築いた安土城の天主がその初めであり、後に「天守・殿主・殿守」とも表されたが、いずれも「てんしゅ」と読まれた。

唐弓弦　とうゆみづる

綿打ち道具。弓の弦のようにしなる形をし、岡崎宿の名産であった。

土橋　どばし

城の土橋は、堀を横断するための土手状の通路であり、両脇を石垣で補強したものがある。

土塀　どべい

土で築いた壁。木の骨組に土を分厚く塗ったものと、土砂を固めたものがある。

土塁　どるい

堀の掘削土を堀の内側に盛り上げ固めたもので、堀と一体となって城を防御するためのもの。土居または土手ともいった。

【な行】

長屋門　ながやもん

長屋の中に組み込まれた門

縄張り　なわばり

築城における曲輪、建物の配置やその計画、または城下町の地割など築城の平面的な計画・設計のこと。

二の丸　にのまる

一つの城において、本丸に次ぐ曲輪

布積み　ぬのづみ

石垣の横方向の目地を通して積む積み方

布積み崩し　ぬのづみくずし

布積みの一類型で、短い横目地を上下、左右に通すもので、築石を配置する積み方のこと。

野面積み　のづらづみ

石を自然石のまま、またはほとんど加工を行わない石を使用して積み上げる積み方

【は行】

はつり

見栄えと防御を兼ねて石垣に施された加工の一つ。ノミで石の表面を細かく打ち欠き滑らかにする。

破風　はふ

屋根の端部にできる三角形の壁面。入母屋破風・千鳥破風・唐破風などの種類がある。

版築　はんちく

土を強く突き固め何層にも重ねる方法で、土壁や建築の基礎などを堅固に構築する工法

平山城　ひらやまじろ

小高い山や丘と平地を利用して造られた、山城と平城の折衷式の城。便宜的な分類である。

風致地区　ふうちちく

水や緑などの要素に富んだ良好な自然的景観を形成している区域のうち、土地利用計画上、都市環境の保全を図るため風致の維持が必要な区域

複合式天守　ふくごうしきてんしゅ

天守に小天守や付櫓を直接つなげて付けた構造の天守

武家屋敷　ぶけやしき

本来、武家は将軍・大名を指し、武家屋敷は大名屋敷のこと。現在は侍屋敷も含めていう場合がある。

譜代大名　ふだいだいみょう

関ヶ原の戦い以前より、徳川氏に臣従して取り立てられた大名

望楼型天守　ぼうろうがたてんしゅ

天守建築の上下層が一体型でない構造。望楼部は基本的に入母屋造の下層を基部として、梁の上に載る形で築かれる。

本丸　ほんまる

一つの城が、二つ以上の曲輪からなっている時の中心となる曲輪

【ま行】

埋蔵文化財包蔵地　まいぞうぶんかざいほうぞうち

地中に埋蔵されている文化財（主に遺跡といわれている場所）の存在が知られている土地

枡形（枡形門）　ますがた（ますがたもん）

枡形とは方形の区画を石垣や土塁で囲む構造の出入口（虎口）をいい、敵が容易に城内に進入できない厳重な守りの構えである。内枡形と外枡形がある。枡形門は、枡形の出入口に建てられた門のことであるが、枡形全体を指す場合もある。

町家　まちや・ちょうか

町人の住居。街路に主屋を直面させる。通りに沿って軒を連ねて建ち並ぶ家屋群のこと。特に城下町の商いの場や仕事の場を兼ねた商人や職人の短冊形の家屋群のことをさす。町屋ともいう。

武者走　むしゃばしり

土塁の上に立てられた塀や柵の内側の通路部分のこと。また、天守や櫓の身舎の周囲に廻された通路状の部分

【や行】

薬医門　やくいもん

鏡柱と控柱（門扉の後方に立つ２本の柱）を一つの切妻造の屋根でまとめて覆った門

櫓　やぐら

矢を収めた倉庫、あるいは矢を射る座（高く設けられた場所）が語源。後に平時はおもに武器の収納庫、戦時は物見や攻撃拠点に使われるようになった。

櫓門　やぐらもん

最も格式が高く防御性も高い二階建ての門で、階上を櫓、階下を門としたもの。

山城　やまじろ

城の立地による分類の一つ。山や丘の頂部・山腹のみを利用して築かれた城

横矢枡形　よこやますがた

横矢（横矢掛け）とは、敵に対して側面から矢を掛ける（攻撃する）ことをいう。横矢枡形は、横矢を掛けるために設けた方形の張り出し部のことをいう。

【ら行】

乱積み　らんづみ

横方向の目地を通さずに積む積み方。大小、不規則な形状の石を積み上げることにより目地が通らない。

廊下橋　ろうかばし

土橋の両側に土塀を設けたり、橋の上に櫓を設けたりしたもの。

参考文献

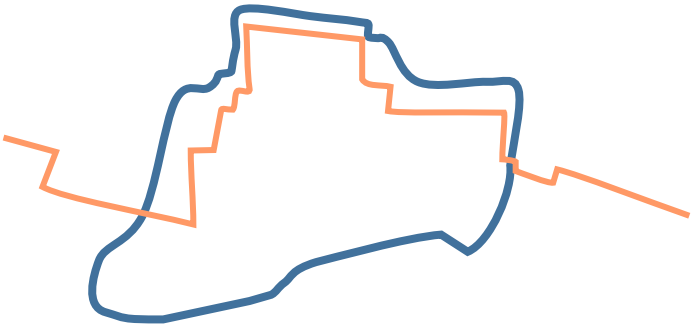
資　　料　　名	編　・　著　　者　　等	刊行年
【岡崎市刊行資料】		
岡崎市史　第１巻	柴田顕正	1926
岡崎市史　第２巻	柴田顕正	1926
岡崎市史　第３巻	柴田顕正	1926
新編岡崎市史　第２巻　中世	新編岡崎市史編集委員会	1989
新編岡崎市史　第３巻　近世	新編岡崎市史編集委員会	1992
新編岡崎市史　第６巻　史料編　中世	新編岡崎市史編集委員会	1983
新編岡崎市史　第７巻　史料編　近世　上	新編岡崎市史編集委員会	1983
新編岡崎市史　第８巻　史料編　近世　下	新編岡崎市史編集委員会	1985
新編岡崎市史　第 20 巻　総集編	新編岡崎市史編集委員会	1993
岡崎市史研究　第３号	岡崎市史編さん委員会	1981
岡崎市史研究　第４号	岡崎市史編さん委員会	1982
岡崎市史研究　第 21 号	岡崎市教育委員会	2000
岡崎市史研究　第 22 号　特集史跡岡崎城跡	岡崎市教育委員会	2000
岡崎市史研究　第 23 号　特集史跡岡崎城跡２	岡崎市教育委員会	2001
岡崎城－城と城主の歴史－	岡崎市	1996
岡崎城二の丸跡	岡崎市教育委員会	1982
歴代　岡崎城主	岡崎市	1988
浮世絵に見る岡崎	三河武士のやかた家康館	1991
岡崎城二の丸跡発掘調査概要　-家康公生誕 450 年記念像設置に伴う発掘調査-	岡崎市教育委員会・岡崎市遺跡調査会	1994
岡崎城跡発掘調査概要	岡崎市教育委員会・岡崎市遺跡調査会	1994
岡崎公園現況調査報告書	岡崎市教育委員会	1997
岡崎城　-城絵図と発掘資料-	岡崎市美術博物館	2002
東海道岡崎城下二十七曲り	岡崎市	2013
岡崎城跡Ⅰ－二の丸・大林寺郭堀－	岡崎市教育委員会	2013
岡崎城跡Ⅱ－東曲輪－	岡崎市教育委員会	2014
岡崎城跡Ⅲ－三の丸－	岡崎市教育委員会	2015
【その他関係資料】		
［岡崎地方史研究会］研究紀要　昭和 47 年版	岡崎地方史研究会	1972
［岡崎地方史研究会］研究紀要　第 16 号	岡崎地方史研究会	1988
愛知中世城郭跡調査報告書	愛知県教育委員会	1994
岡崎公園とそのむかし	大石収宏	1996
岡崎城についての研究集会	愛知中世城郭研究会	1999
近世国家の支配構造	林陸朗先生還暦記念会	1986
建築学会論文集　第 27 号	建築学会	1942
参州岡崎城	小野田嘉之	1993
城郭古写真資料集成　東国編	西ケ谷恭弘	1995
織豊期城郭基礎調査報告書３	滋賀県教育委員会	2002
定本西三河の城	『定本西三河の城』刊行会	1991
日本城郭大系　第９巻　静岡･愛知・岐阜	岡本柳英ほか	1979
復元大系日本の城　第４巻　東海	坪井清足・吉田靖・平井聖	1992
三河　岡崎城	鏡味　成三	1983

岡崎城跡整備基本計画

―平成 28 年度改訂版―

平成 29 年（2017） 3 月

編集・発行　岡崎市教育委員会社会教育課
〒444-8601
愛知県岡崎市十王町二丁目 9 番地
電話（0564）23-6177



岡　崎　市